

観察すべき場合

神の聖なる日

それとも悪魔の祝日？

様々な祝祭日や記念日がどこから来たのかご存知ですか？



「五旬節の日が満ちたとき、彼らは皆心を一つにして
「一つの場所に。」 (Acts 2:1)

Bob Thiel, Ph.D.

観察すべき場合

神の聖なる日か、それとも悪魔の祝日か ？

Bob Thiel, Ph.D.著

聖書には神の祝祭日が記載されていますか？

イエスはどの曜日を守っていたのか？

使徒たちはどの曜日を守っていたのか？

初期のキリストの信者たちは、どの曜日を守っていたのでしょうか？

何か祝日はありますか？

彼らがどこから来たか知っていますか？

あなたや他の人がそれらを観察する理由をご存知ですか？

宗教的な意味合いを持つものはありますか？

あなたは悪魔の祝日を祝っているのでしょうか？

あなたがどの曜日を守るかは、神にとって重要なことでしょうか？

あなたがクリスチャンだと信じているなら、イエスが非難するような悪魔的あるいは異教的な祭りを祝っている可能性はありません

んか？もしそうなら、あなたはイエスの教えに従うほど真実を重んじるでしょうか？

ISBN 978-1-940482-17-0

Copyright © 2016/2017 by Nazarene Books. Edition 2.2. Produced for the Continuing Church of God and Successor, a corporation sole. PO Box 109, Grover Beach, California, 93483 USA.

クレジット：表紙写真は、ニュージーランドのペンテコステの日
にJoyce Thielが撮影したものです。本書では様々な聖書翻訳版
を使用していますが、名称や略称が明記されていない場合は、New
King James Version (NKJV)（トーマス・ネルソン社、著作権©19
97、許可を得て使用）を引用しています。

コンテンツ

1. 聖なる日と一般的な祝日
2. 過越祭：キリストの死だけを記念するものなのか？
3. 守るべき夜と種なしパンの日々
4. ペンテコステ：あなたの召命の真実と神の驚くべき賜物
5. ラッパの祭り：キリストの再臨とそれに至る出来事
6. 贖罪の日：サタン追放
7. 仮庵の祭り：キリストの統治下における世界の姿を垣間見る
8. 最後の偉大な日：人類のための神の驚くべき救済計画
9. 誤訳と安息日
10. 再パッケージ化された悪魔の休日
11. 神の聖なる日か、それとも嘘か？

祝日カレンダー

連絡先

注:本書は英語版を人工知能によって翻訳したものであるため、一部の表現が原文を十分に反映していない場合がありますが、原文に近いものであることを願っています。英語版は www.ccog.org で無料でご覧いただけます。

1. 聖なる日と一般的な祝日

キリスト教を信仰する数多くのグループのうち、ほぼすべてが何らかの祝日や聖日を祝っている。

神の聖なる日を守るべきか、それとも悪魔の祝日を守るべきか？

それは簡単な質問で、答えも簡単そうに思える。そして、様々な群衆の意見ではなく、聖書を信じる意思のある人々にとっては、まさにその通りなのだ。

聖なる日や祝日はどこから来たのでしょうか？聖書に由来するものなのでしょうか、それとも伝統的な異教や悪魔崇拝の儀式と関係があるのでしょうか？

あなたがクリスチャンだと信じているなら、本当に守るべき祝日（もしあれば）とその理由を知っていますか？

この短い本は、聖書に記された年間の聖なる祝祭日に焦点を当てており、他の人々が祝う年間の祝日に関する情報も含まれています。

「祝日（Holiday）」という言葉

ウェブスター辞典によると、holiday（休日）という言葉はもともと古英語のhāligdægに由来する。現代の人々が考えているのとは裏腹に、この語は実際には休暇を取るための時間を意味していたのではなく、holidayはholy day（聖なる日）を意味していた。

もちろん、すべての「祝日」が宗教的な聖日として意図されていたわけではありません。国民の祝日は必ずしも宗教的なものとは

考えられておらず、イエス自身もそうした祝日の一つ以上を守っていたようです（John 10:22-23）。

イエスに関しては、聖書には、イエスが過越祭（Luke 2:41-42、22:7-19）、仮庵祭（John 7:10-26）、最後の大いなる日（John 7:37-38）などの聖書の聖なる日や祭りを守っていたことが具体的に記録されています。;8:2) 新約聖書は、イエスの使徒たちが過越祭（1 Corinthians 5:7）、種なしパンの祭り（Acts 20:6、1 Corinthians 5:8）、ペンテコステ（Acts 2:1-14）、ラッパと仮庵の祭り（Leviticus 23:24、33-37、Acts 18:21、21:18-24、28:17 参照）、贖罪の日（Acts 27:9）を守っていたことを指摘している。

聖書には、イエスや使徒たちが異教徒のローマ人が祝っていたような宗教的な祝祭日を守っていたという記述は一切ない。しかし、キリスト教を信仰する多くの人々は、聖書以外の文献に由来する宗教的な祝祭日を守っている。

それらは保管しておくべきでしょうか？

聖書は、すべての国の民が神の聖なる日を守るか、さもなければ干ばつや疫病に見舞われる時が来ると預言しています（Zechariah 14:16-19）。そうであるならば、あなたも今、そうすべきかどうか考えるべきではないでしょうか？

本書は少なくとも2回は全文をお読みください。聖書の内容について一部の人が提起してきた疑問点のいくつかは、本書の中で取り上げられています。2回読むことで、あなたが抱えているより深刻な疑問への答えが見つかることを願っています。

どうか、このテーマを真に偏見のない心で研究してみてください。人間は誰しも、用心しなければ、これらの毎年の聖なる祝祭日のいかなる表現に対しても、偏見の目で見えてしまうものです。聖書には「聞く前に答える者は、愚かで恥をかく」（Proverbs18:13）とあります。ですから、昔のベレアの人々のように、ここで述べられていることが真実かどうかを確かめてみてください（Acts17:10-11）。

ですから、私たちは、神とその御心に喜んで従い、偏見のない心で、自分のやり方よりも真理を求める開かれた心で、神の聖なる御言葉の前に畏れおののき（Isaiah66:2）、謙遜に聖霊の導きを神に求めましょう。そして、このような祈り、従順、自発的でありながらも慎重な態度で、この問題を研究し、すべてのことを吟味しましょう（1 Thessalonians5:21参照）。

神の祭りや聖なる日

神の祭りが聖書に記されていることをご存知ですか？これは常識的なことのように思えますが、多くの人はその事実を知らず、聖書のどこに書かれているのかも知りません。

さらに、これらの暦には、現在ほとんどの人が使用している暦とは異なる暦に基づいているという問題点があります。神の暦は基本的に太陰太陽暦です。神の聖なる日の時期をよりよく理解する

ために、聖書暦とローマ暦（グレゴリオ暦）の比較表をご覧ください（毎年同じローマ暦の日になるわけではありません）。

（この小冊子の末尾には、祝祭日を含む現代のローマ暦が掲載されています。）

神の聖なる日について言えば、まず創世記の記述から始め、プロ

月名	番号	日数	太陽暦での相当時期
アビブ/ニサン	1	30日	3月～4月
ジフ/イヤル	2	29日	4月～5月
シワン	3	30日	5月～6月
タンムズ	4	29日	6月～7月
アブ	5	30日	7月～8月
エルル	6	29日	8月～9月
エタニム/ティシュリ	7	30日	9月～10月
ブル/ヘシュワン	8	29日または30日	10月～11月
キスレウ	9	30日または29日	11月～12月

テストメントとカトリックの翻訳の両方を示してみましょう。

¹⁴ そして神は言われた。「昼と夜を分けるために、空に光あれ。それらはしるしとなり、祭りの日や年を定めるものとなる。」（Genesis ¹:¹⁴、神の言葉訳、GWT）

¹⁴神は言われた。「天の大空に光があって、昼と夜を分け、祭りの日や年を示すようにせよ。」（Genesis 1:14、新エルサレム聖書）

14節にあるヘブライ語の「モエード（mowed）」という言葉は、宗教的な祭りを指しています。

聖書の最初の書物で宗教的な祭典の存在について語られていることをご存知ですか？詩篇もまた、神が月を創造した基本的な理由としてこれを挙げています。

19彼は祭りを定めるために月を造られた（Psalm104:19、ホルマン・クリスチャン・スタンダード聖書）

これは以前にも聞いたことのある話ですか？

神がそこに置いた「空の光」は、どのような宗教的な祭りを記念するものだったのでしょうか？

さて、聖書にはすべての聖なる日（モエード、mowed'）がリストアップされ、特定の光について言及されている箇所が一つあります。

それは、多くの人が見過ごしたがる、あるいは完全に廃止されたと結論づける聖書の一節にある。以下は、ローマ・カトリック教会の翻訳である新アメリカ聖書（NAB）からの抜粋である（聖書の記述に関わらず、多くのプロテスタントはローマ教会に従って多くの祝日を守っているため、以下ではNABを使用している）。

²…以下は主の祭りである。あなたがたはこれらを聖なる日と定めなければならない。これらはわたしの祭りである。

³六日間は仕事をしてよい。しかし七日目は完全な休息の安息日、定められた聖なる日である。あなたはどんな仕事もしてはならない。あなたがどこに住んでいようと、それは主の安息日である。

⁴これらは主の祭り、聖なる日であり、定められた時に宣言しなければならない。⁵主の過越祭は、第一の月の十四日の夕暮れ時である。⁶この月の十五日は、主の種なしパンの祭りである。七日間、種なしパンを食べなければならない。⁷これらの日の最初の日は、聖なる日と定められ、重労働をしてはならない。（Leviticus ^{23:2-7}、新アメリカ聖書）

15安息日の翌日、すなわちあなたがたが刈り取った束を捧げる日から始めて、七週間を数えなさい。
16第七週の翌日まで、すなわち五十日間を数えなさい。（Leviticus 23:15-16、新アメリカ聖書）

24…第七の月の第一日には、ラッパの音を合図として安息日を休み、聖なる日と定めなさい。（Leviticus 23:24、新アメリカ聖書）

²⁶主はモーセに言われた。²⁷さて、この第七の月の十日は贖罪の日である。あなた方は聖なる日を定め、謙遜な心で主に捧げ物をささげなければならない。²⁸この日は一切の仕事をしてはならない。この日は贖罪の日であり、あなた方の神、主の前であなた方のために贖罪が行われる日だからである。²⁹この日に謙遜しない者は、民の中から断ち切られるであろう。³⁰この日に誰かが何らかの仕事をするな

らば、私はその人を民の中から排除する。³¹あなた方は一切の仕事をしてはならない。これは、あなた方がどこに住んでいようとも、代々にわたって守るべき永遠の定めである。³²それはあなたたちにとって完全な安息日である。あなたたちは謙遜にならなければならない。月の9日の夕方から始めて、夕方から夕方まで安息日を守らなければならない。

³³主はモーセに言われた。³⁴イスラエル人に告げよ。「この第七の月の十五日は、主の仮庵の祭りである。この祭りは七日間続く。」³⁵初日は聖なる日と定められているため、重労働をしてはならない。³⁶七日間は主に供え物をささげ、八日目は聖なる日と定め、主に供え物をささげなければならない。それは祭りの終わりの日である。重労働をしてはならない。

37それゆえ、これらは主の祭りである… (Leviticus23:26-37、新アメリカ聖書)

聖書には、神の祭りや聖なる日が明確に記されている。しかし、キリスト教徒を自称する人々のほとんどは、神が命じる聖なる日を真に守っていない。

注：聖書における1日は、日没から日没まで (*Genesis1:5, Leviticus23:32, Deuteronomy16:6, 23:11, Joshua8:9, Mark1:32*) であり、現代のように真夜中から真夜中までではありません。また、旧約聖書の聖なる日に関連する儀式の中には、新約聖書が明らかにしているように、キリスト教徒のために変更された側面もあります (例：*Matthew26:18, 26-30, Hebrews10:1-14*) が、

実際にはこれらの日や祭りは今も存在し、異邦人を含む初期のキリスト教徒によって守られていました。

私たちはContinuing Church of Godは、イエスとその弟子たち、そしてスミルナのポリュカルポスのような異邦人のキリスト教指導者を含む忠実な信者たちが守ってきた聖書の聖日をそのまま守っています。私たちは、初期および後期のキリスト教徒が守ってきた方法でこれらの聖日を守っています。これは、ユダヤ人が守る基本的な聖日とはいくつかの点で異なります。なぜなら、ユダヤ人はこれらの聖日の意味や、キリスト教徒がどのように守るべきかについての新約聖書の教えを受け入れていないからです。

神の祭りを遵守する多くのキリスト教徒は、聖書的な聖なる祝日は、イエスの初臨と再臨を指し示すとともに、神の救済計画を理解する助けとなる。

2. 過越祭：キリストの死だけを記念するものなのか？

キリスト教徒は過越祭を守るべきでしょうか？

多くの人が知っているように、イスラエルの民は出エジプト記の中で、過越祭を守るようにと具体的に命じられました。各家庭は傷のない子羊（Exodus12:5）を犠牲として選び（Exodus12:3-4）、14日の夕暮れ時に子羊を犠牲に捧げ（Exodus12:6）、その血の一部を家の戸口に塗りました（Exodus12:7）。

神が指示した手順に従った人々は死を免れたが、そうしなかったエジプト人はそうではなかった（Exodus12:28-30）。

多くの人が知っているように、イエスは若い頃から（Luke2:41-42）、生涯を通じて（Luke22:15）、毎年過越祭を守りました（Exodus13:10）。

過越祭は、第一の月の14日に祝われました（Leviticus23:5、Deuteronomy16:1ではアビブ、Esther3:7ではニサンと呼ばれています）。過越祭は春に行われます。

イエスはそれに関連するいくつかの慣習を変えましたが（Luke22:19-22、John13:1-17）、同時に弟子たちにそれを守るようにと命じました（Luke22:7-13）。また、新約聖書は、イエスの犠牲のおかげで、羊を屠って戸口に血を塗る（Exodus12:6-7）必要なくなったことを明確に述べています（Hebrews7:12-13、26-27、9:11-28参照）。

使徒パウロは、キリスト教徒はイエスの教えに従って過越祭を守るべきだと具体的に教えた（1 Corinthians 5:7-8、11:23-26）。

聖書は、イエスが「世の初めから定められていた」（1 Peter 1:20）、「世の初めから屠られた小羊」（Revelation 13:8）であると教えています。このように、イエスが「過越の小羊」であることを含め、神の聖なる日と祭りを通じた救いの計画は、人類が地球上に置かれる前から知られていました。そのため、いくつかの天体は天に配置され、

計算してみよう！

ほぼすべての教会が、聖書はイエスが殺されたことで過越祭に関連する何かを成就したと教えていることを認めている。

この偉大な犠牲の儀式は、エデンの園でも語られています。イエスが預言された後（Genesis3:15）、神は動物（おそらく子羊か山羊）を殺し、アダムとイブの裸（この出来事では罪の一種を象徴している）をその皮で覆いました（Genesis3:21）。また、アベルが自分の羊の群れから子羊を犠牲に捧げた時にも、この犠牲の原則が働いていたことが分かります（Genesis4:2-4）。

モーセの時代に行われた有名な過越祭は、イスラエルの民がエジプトから解放されたことを象徴するものでした（Exodus12:1-38）。モーセは、この出来事に関する神の指示だけでなく、暦（Genesis1:14、2:1、Exodus12:1）や神の祭り（Leviticus 23）についても記録しました。過越祭は基本的に、神の子らに神の偉大な救済計画を象徴的に示す、毎年行われる行事の最初のものとなりました。

旧約聖書において、過越祭はエジプトの束縛からの解放と神の介入を象徴していました。しかし、預言的には、イエスが来臨し、私たちの過越の小羊となる時を予見するものでもありました（1 Corinthians 5:7）。世の罪を取り除くために来られた神の子羊です（John 1:29、参照 3:16-17）。

人間としての最後の過越祭で、イエスは夜遅くまでそれを守り続け、弟子たちにもそれを守るように命じました（Luke 22:14-19、John 13:2、12-15 参照）。そして14日にはニサン/アビブの（Luke 22:14; 23:52-54 参照）。

しかし、イエスは過越祭の慣習のいくつかを変えました。イエスは種なしパンとぶどう酒を過越祭の不可欠な要素とし（Matthew 26:18、26-30）、足を洗う慣習を加えました（John 13:12-17）。

イエスは、過越祭を毎年行うべきではないとは決して教えておらず、ギリシャ・ローマの伝統に従う人々のように、過越祭の実施時間を日曜日の朝に変更することもなかった。ギリシャ正教の学者でさえ、1世紀と2世紀のキリスト教徒が、私たち Continuing Church of God が21世紀に行っているのと同じように、夜に過越祭を守っていたことを認めている（Calivas, Alkiviadis C. The Origin of Pascha and Great Week - Part I. Holy Cross Orthodox Press, 1992）。過越祭は、正しく洗礼を受けたキリスト教徒のみが行うべきである（1 Corinthians 11:27-29、Romans 6:3-10、Exodus 12:48、Numbers 9:14 参照）。

付け加えておくべきこととして、ローマ教会（およびその多くのプロテスタント系教会）は、英語では別の呼び方をしているものの、イエスが行ったようには守っていないものの、公式には過越

祭を守っていると教えている（カトリック教会のカテキズム、Doubleday、ニューヨーク、1995年、332ページ）。

ワイン、ブドウジュースではない

イエスが水をぶどう酒に変えたという事実（John2:3-10）と新約聖書で使用されているギリシャ語の用語（ワイン）はワインを指す（1 Timothy3:8参照）が、過越祭で使われたのはワインではなくブドウジュースだったと主張する人もいる。しかし、ユダヤ人自身は過越祭でワインを使う（Hirsch EG、Eisenstein JD. Wine. Jewish Encyclopedia. 1907、pp. 532-535）。

イエスがブドウジュースを使った可能性がないと、どうして断言できるのでしょうか？

ブドウは通常9月頃に収穫され、過越祭はローマ暦で4月に行われます。イエスの時代には、現代のような殺菌や冷蔵技術はありませんでした。そのため、ブドウジュースは収穫から過越祭までの間に腐敗してしまったでしょう。

ユダヤ人がブドウジュースをそれほど長期間保存することは不可能だったと指摘する人もいる（ケネディARS著『ヘイスティングス聖書辞典』C.スクリブナー・サンズ社、1909年、974ページ参照）。したがって、何年も腐敗せずに保存できるワインだけが使われたと考えられる。（Deuteronomy 26:14では、仮庵の祭りにおいてワインなどのアルコール飲料の使用が推奨されているが、義務付けられてはいない。）

キリスト教徒は「酒に酔ってはならない。酒には放蕩があるからである」（Ephesians 5:18、欽定訳）とパウロは書いています。

過越祭で通常飲まれるワインはごく少量（ティースプーン1杯程度、あるいはそれ以下）です。

過越祭は14日であり、15日ではなかった

聖書に記されている過越祭の日付について、混乱している人もいる。

聖書は、それが神の暦の第一の月の14日に守られるべきだと教えている（Leviticus 23:5）。

Exodus 12:6には、子羊は「夕暮れ時」に屠らなければならないと記されている（GWTおよびJewish Publication Society訳）。8節には、その夜に肉を食べるようにと書かれています。その夜に焼いて食べるようにと。確かに、子羊を屠った経験のある人なら、日没から真夜中までの間に「1歳の子羊」（Exodus12:5）を屠り、焼いて食べることは容易です。これは基本的に、Exodus 12に記されている過越祭でイスラエルの民が行ったことと同じです。厳密に言えば、Exodus12:10によれば、彼らは朝までに食べることができたはずです。聖書は、天使の過越祭が「その夜」（Exodus12:12）、つまり14日の同じ夜に起こったことを明確に述べています。

聖書は、イエスは一度だけ犠牲にされたと教えています（1 Peter 3:18、Hebrews 9:28、10:10-14）。新約聖書では、イエスが最後の過越祭を守り（Luke 22:14-16）、殺されたことが明らかです。聖書は、イエスが15日前に杭から降ろされたことを示しています。なぜ？ 15日、それは「大祭日」（John19:28-31）であり、具体的には種なしパンの初日（Leviticus23:6）であった。したがって、イエスは14日に過越祭を守り成就した。

初期の教会史には、過越祭が14日に祝われたことも記録されている。ニサン月の祝祭は、1世紀、2世紀、3世紀の敬虔なユダヤ人と異邦人のキリスト教徒の指導者によって祝われ（エウセビオス『教会史』第5巻第24章）、夕方に祝われた（カリバス）。

キリストを公言する指導者のほとんどは、何らかの形で過越祭を守っていると主張しているが、多くは名前、日付、時間などを変更している。

シンボルとその意味（第10章のイースターの項を参照）。

聖書は、イエス・キリストが私たちのために犠牲にされた過越の小羊であり、私たちは種なしパンを用いてその祭りを守るべきであると明確に教えています。

⁷古い酵母を取り除きなさい。そうすれば、あなたがたは種なしパンのように、新しい生地となるでしょう。なぜなら、私たちの過越の小羊であるキリストは、すでに犠牲として捧げられたからです。⁸ですから、私たちは、悪意と邪悪の古いパン種ではなく、誠実と真実の種なしパンで、この祭りを祝いましょう。（¹ Corinthians ⁵:⁷⁻⁸、新アメリカ聖書）

祭りは誠実と真実の種なしパンで祝われるべきであることに注目してください。使徒パウロは、イエスがユダヤ人が用いる過越の小羊の代わりであることを理解していました。彼はまた、クリスチャンは引き続き過越の祭りを守るべきだと教えました。

しかし、キリスト教徒は一体どのようにすれば良いのだろうか？

使徒パウロは次のように説明しています。

²³わたしは主から受けたことをあなたがたにも伝えました。
すなわち、主イエスは裏切られたその夜にパンを取り、
²⁴そして感謝をささげた後、パンを裂いて言われた。「取
って食べなさい。これはあなたがたのために裂かれたわた
しの体です。わたしを記念してこれを行いなさい。」²⁵同
じように、夕食後、イエスは杯を取り、「この杯はわた
しの血による新しい契約である。あなたがたはこれを飲むた
びに、わたしを記念してこれを行いなさい」と言われた。
²⁶あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、
主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。（¹ Corin
thians ^{11:23-29}）

使徒パウロは、キリスト教徒はイエスがパンとぶどう酒を用いて
最後の過越祭を守ったのと同じように過越祭を守るべきだと教え
た。それは夜に、記念として、あるいは追悼として行われるもの
であり、記念とは毎週ではなく、年に一度の行事である。

カトリック教会のカテキズムは、「イエスは過越の祭りの時期を
選び、パンを取り、それを裂き」、食べるように与えたと正しく
指摘している。

聖書には、イエスが種なしパンを裂いて弟子たちに食べさせたこ
とが記されています。イエスはまた、弟子たちに少量のワインを
飲ませました。私たちContinuing Church of Godは祈り、種なし
パンを裂いて配り、忠実な信者が飲むためのワインを配ります。
しかし、ローマ教会（他の多くの教会と同様）はもはや種なしパ
ンを裂くことはなく（全パンを使用します）、また通常は信者に
ワインを配ることもありません（ローマ教会ではワインの配布は

任意とされており、プロテスタント教会では行われなことが多
い)。

「**あなたが頻繁に宣言するように…**」はどうでしょうか？

過越祭はどのくらいの頻度で祝うべきでしょうか？

イエスはこう言った。「**あなたがたは、このパンを食べ、この杯
を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。**

。

これが記念しているのはイエスの死であることを考えてみてくだ
さい。

キリストの死は私たちを神と和解させ (Romans5:10)、イエス
は私たちの救いのために命を捧げました (John3:16-17、Hebrew
s5:5-11)。キリストの死は、クリスチャンは罪が私たちの死すべ
き体を支配してはならないことを教えています (Romans6:3-12
)。キリスト教の過越祭は年間イエスの死を記念する行事。

イエスは、この儀式をあなたが望むだけ頻繁に行うようにとは言
っていません。ただ、それを行うとき、あなたはイエスの死を宣
言しているのです。1 Corinthians 11:26 の「頻繁に」のギリシャ
語は、ホサキは、新約聖書で他に1回使用されています。これは
、あなたが望むほど頻繁にという意味ではありません。ただし、
「あなたが望む」のギリシャ語は、テロ または エテロも存在しま
す (Revelation11:6にあります。聖書の中でこの特定の用語が使
われているのは他にここだけです)。しかし、これが1 Corinthia
ns11:26には存在しないため、パウロは私たちが望むだけ主の過

越祭を守るように言っているのではなく、過越祭を守るときには、それは単に

それは儀式であり、キリストの死を描写している。

さらに、パウロは次のように書いています。

27それゆえ、ふさわしくない態度でこのパンを食べたり、主の杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになる。28しかし、人はまず自分自身を吟味し、それからパンを食べ、杯を飲むべきである。29ふさわしくない食べ方や飲み方をする者は、主の体をわきまえないで、自分自身に裁きを招くことになる。（1 Corinthians 11:27-29）

パウロは、このパンとぶどう酒をいただくためには、まず自分自身を吟味しなければならないと明確に教えています。過越祭に伴う酵母抜きは、私たちの過ちや罪に目を向けさせ、ひいてはパウロの「自分自身を吟味せよ」という命令を果たす助けとなります。酵母抜きには多くの労力を要するため、これは年一回の吟味という概念を裏付けるものでもあります（人々は毎日、あるいは毎週酵母を取り除いていたわけではありません）。

新約聖書には、イエスとパウロの両方がキリスト教の慣習に従って過越祭を守るよう教えたことが記されている。そしてそれは毎年行われる行事だった。

足洗い

足を洗うことは謙遜さを示すのに役立ち、キリストの信者でさえも清められるべき部分を持っている傾向があることを示している（John13:10参照）。

イエスは弟子たちに、次のように教えた。

¹³あなた方は私を教師、そして主と呼ぶ。その通りだ、私はまさにその通りなのだから。¹⁴もしわたし、あなたがたの主であり教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったのなら、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。¹⁵わたしはあなたがたに模範を示した。わたしがあなたがたにしたように、あなたがたもそうしなさい。¹⁶はっきり言うておくが、しもべはその主人より偉くなく、遣わされた者は遣わした者より偉くはない。¹⁷これらのことを知っているなら、それを行うあなたは幸いです。(John ^{13:13-17})

キリスト教徒を自称する人の中で、イエスが言ったように足を洗う人は比較的少ない。

しかし、私たちはContinuing Church of Godは、この点に関して毎年イエスの教えに従っている。

聖書以外の情報源

キリスト教徒が毎年過越祭を祝っていたことは、聖書だけでなく、歴史にも記されている。信者たちは毎年14日に過越祭を祝っていた。初代使徒の時代から時代を超えて（ティール B. Continuing History of the Church of God 第2版、ナザレン・ブックス、2016年版）。

破損したテキストには興味深い情報が含まれています。ポリカルポスの生涯（この文書は2世紀の著作に基づいているようですが、現在見られる現存版には4世紀に追加されたと思われる情報や変更が含まれています。モンロイ写本『スミルナ教会：原始キリ

スト教共同体の歴史と神学』ピーター・ラング版、2015年、31ページを参照）。興味深いのは、小アジアにおける過越祭の慣習が使徒ヨハネからスミルナにもたらされたのではなく、さらに以前に使徒パウロからもたらされた可能性を示唆している点です（ピオニウス『ポリュカルポスの生涯』第2章）。

*ポリカルポスの生涯*新約聖書の過越祭は、種なしパンとぶどう酒を用いて、種なしパンの季節に行われるべきであったことを示唆している。異端者たちは別の方法でそれを行っていたと述べられている。また、その文書は、種なしパンとぶどう酒が毎年用いられていたという考えを裏付けている。

歴史によると、聖書に記されている使徒たち（フィリポとヨハネを含む）や、司教／牧師のポリュカルポス、トラセア、サガリス、パピリウス、メリト、ポリュクラテス、アポリナリスらは、毎年14日に過越祭を祝っていた。（エウセビオス『教会史』第5巻第24章2-7節）。ローマ・カトリック教会、東方正教会、英国国教会はいずれもこれらの指導者たちを聖人であると考えているが、いずれの宗教もこの点において彼らの模範に倣ってはいない。

小アジア・フリギアのヒエラポリスの司教／牧師アポリナリスは、紀元180年頃にキリスト教徒に過越祭を14日に守るよう指示する書物を書いた。：

十四日目、主の真の過越の日。大いなるいけにえ、子羊の代わりに神の子が縛られ、過越の日に葬られ、墓の上に石が置かれた。

イエスは14日に食事をし、過越祭を守った。14日に殺害され、14日に埋葬された。これは15日ではなかった。そして、イエスが亡

くなった年は、日曜日ではありませんでした。イエスは日没直後に過越祭を済ませ、日中に殺され、再び日が沈む前に埋葬されたのです（新しい一日が始まるため）。

2世紀後半、エフェソスの司教／牧師ポリクラテスは、ローマの司教ヴィクトルが過越祭を14日ではなく日曜日に祝うよう強制しようとした際に、ヴィクトルに手紙を送った。：

ポリュクラテスはこう書いた。「私たちは正確な日を守り、加えたり、取り除いたりしません。アジアでも偉大な光が眠りにつきましたが、主が天から栄光とともに来られ、すべての聖人を探し出す主の来臨の日に再び立ち上がるでしょう。その中には、十二使徒の一人であるフィリポがヒエラポリスで眠りにつきました。また、彼の二人の老いた処女の娘と、聖霊に満たされてエフェソスで眠っているもう一人の娘もいます。さらに、証人であり教師でもあったヨハネは、主の胸に寄りかかり、祭司として祭司服を身に着けていました。彼はエフェソスで眠りにつきました。また、スミルナの司教であり殉教者であったポリュカルポス、エウメニアの司教であり殉教者であったトラセアもスミルナで眠りにつきました。ラオディキアで眠りについた司教であり殉教者であったサガリスや、祝福されたパピリウスについて言及する必要があるでしょうか。聖霊に満たされて生き、サルディスに横たわり、死からよみがえって天から司教職を授かるのを待っている宦官メリトはどうでしょうか。これらの人々は皆、福音書に従って過越祭の14日目を守り、何ら逸脱することなく信仰の規則に従いました。そして、あなた方の中で最も取るに足りない私、ポリュ

クラテスも、親族の伝統に従っています。親族の中には私が忠実に倣った者もいます。私の親族のうち7人は司教であり、私は8人目です。そして私の親族は、人々がパン種を取り除く日を常に守っていました。ですから兄弟たちよ、主にあって65年間生き、世界中の兄弟たちと出会い、聖書のすべてを熟読してきた私は、恐ろしい言葉に怯えることはありません。私よりも偉大な者たちが「私たちは人に従うよりも神に従うべきだ」と言ったからです。私はあなた方の願いで召集した、その場にいた司教たちの名前を挙げるができます。もし私が名前を書き記すとしたら、それは膨大な数になるでしょう。そして彼らは私の小ささを見て、私が白髪を無駄にしていたのではなく、常に主イエスによって人生を導いてきたことを知っていたので、その手紙に同意してくれたのです。

ポリクラテスの手紙にはこう書かれている。

- 1) 彼は使徒ヨハネから伝えられた教えに従っていると述べた。
- 2) 彼は福音の教えに忠実であると述べた。
- 3) 聖書の教えはローマ教皇庁が認める伝統よりも上位にあるという立場に依拠した。
- 4) 彼は、以前の教会指導者たちから受け継いだ教えに忠実であると述べた。
- 5) 彼は当時、小アジアの信者の代弁者であったことを示した。
- 6) 彼と彼の先人たちは種なしパンの時期を守っていたと述べた。

7) 聖書に基づかないローマの伝統が聖書よりも権威を持つことを拒否した。

8) ローマ司教の権威を受け入れることを拒否し、分離することを好んだ（Revelation18:4参照）。

9) 自分の人生はイエスによって導かれるべきであり、人の意見によって導かれるべきではないと述べた。

ポリュクラテスのように、イエスと使徒たちの模範に倣いますか？

初期のキリスト教徒は14日に過越祭を祝ったため、彼らやそうした他の人々は多くの歴史家によってQuartodecimans（ラテン語で「14分の」の意）と呼ばれた。

初期のキリスト教徒たちは、過越祭が神の救済計画と関係していることを理解していました。西暦180年までに、サルディスの司教／牧師メリトが次のように記していることに注目してください。

さて、律法に記されているとおり、過越の奥義がここにあります。…それゆえ、民は教会の模範となり、律法はたとえ話的な概略図となりました。しかし、福音は律法の解説とその成就となり、教会は真理の宝庫となりました。…この方が、私たちの救いの過越です。この方は、多くの人々の中で多くのことを忍耐強く耐え忍ばれた方です。…この方は、処女のうちに人となり、木にかけられ、地に葬られ、死者の中から復活し、人類を墓の下から天の高みへと引き上げられた方です。この方が、屠られた小羊です。

過越祭は、後世においても信者やその他の人々によって毎年ニサンの14日に祝われました。カトリックの学者（エウセビオス、ソクラテス・スコラスティコス、ベータ）は、これが4、5、6-8世紀そして後の世紀にも起こったことを記録している。神の教会の様々な著述家が、使徒の時代から現代に至るまでのその慣習をたどっている（例：Dugger AN、Dodd CO.『真の宗教の歴史』第3版、エルサレム、1972年（セブンスデー・チャーチ・オブ・ゴッド）、Thiel B.『Continuing History of the Church of God』、ナザレン・ブックス、2016年）。

ギリシャ・ローマの学者たちは、足洗いなどの過越祭の側面が、初期の敬虔なキリスト教徒とみなされた人々によっても守られていたことを認識している（例：Thurston, H. (1912). Washing of Feet and Hands. In The Catholic Encyclopedia）。

過越祭は、Leviticus 23に挙げられている、年中行事の中で最初の祝祭です。

過越祭は、キリスト教徒にとって救いと恵みを象徴するものです。なお、初期キリスト教の文献では、過越祭は「主の晩餐」ではなく「過越祭」と呼ばれることが多い点に留意すべきです。

過越祭の遵守の必要性を「精神的な意味合い」で片付けようとする人もいるかもしれないが、ギリシャ・ローマ人や神の教会によって聖人とみなされた指導者たちは、過越祭を文字通りに守っていた。

私たちはContinuing Church of Godは今日でもそうしている。

私たちはContinuing Church of Godは過越祭を守り、互いの足を洗い合うという歴史的かつ聖書的な慣習を取り入れている。

最初からの計画

過越祭は、神が天地創造以前から（1 Peter 1:20）、私たちの罪のためにイエスを遣わし、死なせる計画を持っておられたこと、神が私たちを愛しておられること（John 3:16）、神が私たちを救うことができること、そして御子が私たちのために苦しみ、死んでくださったことを示しています。過越祭は、クリスチャンはイエスの死によって罪から解放され、罪の中にとどまるべきではないことを示しています（Romans 6:1-5）。

しかし、イエスの犠牲を受け入れることだけが、神の救済計画のすべてではない。

多くの人々は、過越祭やペンテコステをある程度認識することで、神の救いの祭りの始まりを守っているが、他の聖書の祭りで示されている神の恵みの「豊かさの深さ」（Romans 11:33参照）を知るまでには至らない（2 Peter 3:18）。

キリストは私たちの救いの創始者であるだけでなく（Hebrews 5:9）、救いを完成させた方でもあります（Hebrews 12:2、1 Peter 1:1-9）。真の信者は、春と秋の聖なる日を守ります。

3. 守るべき夜と種なしパンの日々

聖書は、エジプトがイスラエルの民が解放されなければならなかった罪の型であったことを示しています（Exodus13:3、Revelation11:8参照）。聖書は、今日のクリスチャンが霊的な「バビロン」の型である世界に生きていることを示しています（Revelation17:1-6）。聖書は、クリスチャンが比較的近い将来そこから解放されることを示しています。後神はバビロンに災いを注ぎかけます（Revelation18:1-8）。ヨハネの黙示録に記されている災いのいくつかは、神の民が救われる前にエジプトで行われた災いとよく似ています。

イスラエルの民は、種なしパンの祭りの初日にエジプトを出発した。

聖書のLeviticus 23:7-8には、種なしパンの祭りの最初と最後の日は、聖なる「集会」（新改訳聖書）、「聖なる集まり」（新共同訳聖書）の時であると記されています。ニサンの15日の夕方（この聖なる日の始まり）から種なしパンの祭りが始まり、そこでは食事をするのが伴いました（Exodus 12:16、Leviticus 23:6参照）。

聖書には次のように記されている。

⁴²それは、主が彼らをエジプトの地から導き出されたことを記念して、主のために厳かに守るべき夜である。これは、イスラエルのすべての子孫が代々守るべき主の夜である。（Exodus ^{12:42}、欽定訳）

これは、主が彼らをエジプトの地から導き出された、主の守るべき夜である。イスラエルのすべての子孫は、代々この夜を守らなければならない。（ドゥエ・ランス訳）

キリスト教徒にとって、守るべき夜は、霊的なエジプトから脱出するための行動を起こすことを象徴しています（Revelation 11:8 参照）。これはキリスト教徒が喜ぶべきことです。

歴史的に、祝祭の夜には通常、盛大な夕食が催された。夕食には、通常、無発酵パンが含まれていたが、それに限定されるものではなかった。

ユダヤ人の大多数は15日を過越祭と呼ぶ

ユダヤ人の指導者たちは、過越祭の日付とそれにまつわる慣習の一部を変更した。一部のラビ文献によると、これは彼らが敬虔なキリスト教徒と同じ過越祭を守りたくなかったためだとされている（Wolf G. Lexical and Historical Contributions on the Biblical and Rabbinic Passover. G. Wolf, 1991）。

しかし、おそらく「守るべき夜」に食事を摂ることや特定の伝統、そしてディアスポラ（イスラエルの地外に住むユダヤ人）や暦の問題（「聖なる日」、『ユダヤ百科事典』1906年版）のためにユダヤ人が聖日をどのように扱うかといったことと相まって、ほとんどのユダヤ人はニサン/アビブの15日の夕方に守ることから、ユダヤ人は「守るべき夜」を過越祭と呼ぶ傾向がある。14日と15日の両方を過越祭として守る人もいます。

イエスの時代、サドカイ派は14日に過越祭を祝う傾向があり、ファリサイ派は15日に祝う傾向があった（ジェフリー・W・ゴール

ドワッサー師著「アメリカのユダヤ人はなぜ過越祭のセデルを2
回行うのか？」）。

しかし、聖書は、この二つの異なる時期にはそれぞれ異なる目的
があると教えています。旧約聖書の過越祭は、イスラエルの民が
守られ、死の天使の苦しみを受けなかったことを示しています。
新約聖書の過越祭は、キリスト教徒にとって、イエスが自らの死
によって私たちの罪の罰を負われたことを示しています。

しかし、この「守るべき夜」は、ユダヤ人に、神がエジプトの奴
隷状態から解放してくださったことに感謝すべきであることを思
い出させるものでした（Exodus12:42）。キリスト教徒にとって
、「守るべき夜」は、イエスが罪の束縛から解放してくださった
ことを喜び、感謝すべきであることを教えています（John8:34-3
6）。

ユダヤ教の学者の中には、聖書に記されている過越祭と種なしパ
ンの祭りは別の日付であることを認識している者もいる。

しかし、Leviticus 23は、月の14日に定められている過越
祭と、15日に定められている種なしパンの祭り（ἐορτή
ἡ τῶν ἁζύμων、Luke22:1、ヨセフス『ユダヤ戦記
』2.1、§3）を区別しているように思われる。（過越祭。
1906年ユダヤ百科事典）

したがって、ほとんどのユダヤ人は15日に自分たちが守っている
ものを過越祭として、15日は聖書では、7日間の種なしパンの祭
りの一部とされています。ユダヤ人はエジプト脱出を重視し、聖
書に基づかない特定の伝統に依拠する傾向があるため、主に2日
目のみを祝うことが多いです。

Exodus 12は過越祭について述べており、神がモーセとアロンに、民に教えるべきこととこれから起こることを指示するところから始まります。この指示には、第一の月の10日目にアビブと呼ばれる子羊を取り出し、14日まで取っておくことが含まれていました。夕暮れ時に殺される予定だった日――14日の始まり。

過越祭に関する以下の説明から、ある点に注目してください。

²¹それからモーセはイスラエルの長老たち全員を呼び集めて言った。「各自の家族ごとに子羊を選び、過越の小羊を屠りなさい。²²ヒソップの束を取り、鉢の中の血に浸し、その血で戸口の鴨居と二つの柱を塗りなさい。朝まで、だれも家の戸口から出てはならない。（Exodus 12:²¹⁻²²）

「朝まで」という表現は、ヘブライ語で「夜明け」「日の出」を意味する言葉に由来する。

そのため、イスラエル人は14日の夜明けまで家から出なかった。その夜、何が起こったのですか？

²⁹そして真夜中になると、主はエジプトの地のすべての初子を打たれた。王座に座るファラオの初子から、牢獄にいる捕虜の初子、そしてすべての家畜の初子に至るまで…。³³エジプト人は民に、彼らを急いでこの地から追い出すよう促した。彼らは「私たちは皆死んでしまうだろう」と言ったからである。（Exodus 12:^{29,33}）

モーセとアロンは夜間に外出しなかった――これは多くの人が抱いている誤った思い込みである。

²⁸するとファラオは彼に言った。「私から離れろ！自分の身に気をつけろ、二度と私の顔を見てはならない！私の顔を見たら、お前は死ぬのだ！」

²⁹そこでモーセは言った。「あなたはよく言った。私はもう二度とあなたの顔を見ることはないだろう。」 (Exodus10:28-29)

長子の死後、イスラエル人はエジプトを出発する前にいくつかの任務を遂行しなければなりませんでした。彼らは夜明けまで家の中に留まり、食べ残した子羊の残骸を焼き、エジプト人が住む村や町に行き、銀、金、衣服を分けてもらうよう頼み、持ち運ぶべき持ち物を集めて積み込み、家畜や羊の群れと共に徒歩で旅をし、中には20マイルも歩く者もいました。そして、エジプトからの組織的な旅が始まるラメセスへと向かいました。

³⁴そして人々は、発酵させる前の生地を、こね鉢を衣服に包んで肩に担いで持ってきた。³⁵イスラエルの子らはモーセの言葉に従い、エジプト人から銀の宝石、金の宝石、そして衣服を借りた。³⁶主はエジプト人の目に民の好意を与えられたので、エジプト人は民が必要とするものを貸し与えた。そして民はエジプト人を略奪した。³⁷そしてイスラエルの子らはラメセスからスコトへ旅立った。その数は、子供を除いて、徒歩の男約⁶⁰万人であった。³⁸そして、様々な人々が彼らと共に上って行った。羊の群れや牛の群れ、そして非常に多くの家畜も。³⁹そして彼らは、エジプトから持ち出した生地で種なしパンを焼いた。それは種なしパンだったからである。彼らはエジプトから追い出され、とどまる時間もなく、また自分たちのために食料を用意していなかったからである。(Exodus ^{12:34-39}、欽定訳)

注目すべき夜は、彼らがラムセスを出発した夜、つまり実際にエジプトを去った夜である。

神の指示通りに行動した後、彼らは去っていった。

Exodus 13:18には、「イスラエルの子らは整然と隊列を組んでエジプトの地から上って行った」と記されている。人数と年齢層を考えると、彼らが過越祭の翌晩までにこれらすべてを成し遂げたことは驚くべきことである。

種なしパン

私たちキリスト教徒は、イエスが過越祭で私たちの罪の代価を支払ってくださったことを認識しており、イエスがそうされたように、罪と偽善のない生き方を心がけるべきであると考えています。パン種は、これらを象徴的に表すものと言えます（Luke12:1）。

故ハーバート・W・アームストロングはこのことについて次のように書いています。

そして、イスラエル人が奴隷状態からの解放に大きな歓喜と喜びを抱き、意気揚々と出て行ったように（Numbers3 3:3）、新しく生まれたクリスチャンも幸福と喜びの雲の上でクリスチャン生活を始めます。しかし、その後どうなるのでしょうか？

悪魔と罪は、神の子として生まれたばかりの者をすぐに追い詰める。そして間もなく、経験の浅い新米クリスチャンは深い落胆に陥り、諦めて信仰を捨てたくなる誘惑に駆られる。

Exodus 14:10から見てください。イスラエル人は、大軍が自分たちを追ってくるのを見た途端、勇気を失いました。恐怖に襲われ、不平不満を言い始めました。ファラオとその軍隊はあまりにも強大で、逃げ切るのは不可能だと悟ったのです。そして、彼らは無力でした。私たちも同じです。

我々の力は不十分だ！

しかし、モーセを通して彼らに伝えられた神のメッセージに注目してください。「恐れるな、立ち止まって主の救いを見よ。エジプト人については、二度と彼らを見ることはない。主があなたたちのために戦ってくださるのだ。」なんと素晴らしいことでしょう！

無力な私たちは、じっと立ち止まり、主の救いを見守るように言われています。主は私たちのために戦ってくださいます。私たちはサタンと罪に打ち勝つことはできませんが、主はできます。復活されたキリスト、私たちの最高の祭司こそが、私たちを清め、聖化し、救い出し、決して私たちを見捨てない、決して離れないと約束してくださったのです！

私たちは自らの力や意志で戒律を守ることはできません。しかし、私たちの内におられるキリストは、戒律を守ることができます！私たちは信仰をもってキリストに頼らなければなりません。（アームストロング HW. 『神の聖なる日—それとも異教の祝日—どちらを選ぶ？』 ワールドワイド・チャーチ・オブ・ゴッド、1976年）

祭りの目的

しかし、このことの真の意味を学びましょう。なぜ神はこれらの祝祭日を定められたのでしょうか？神の偉大な目的は何だったのでしょうか？Exodus 13:3を開いてください。「…モーセは民に言った、『あなたがたがエジプトから出てきたこの日を覚えなさい…』」これはアビブの15日目でした。6節：「七日間は種なしパンを食べ、七日目は主への祝祭日とする…これは主がなさったこと（記念）のために行われる…そしてそれはしるしとなる」—（奇跡的な身分証明）—「あなたの手に、あなたの目の間に記念として」—なぜでしょうか？—「主の律法があなたの口にあるため…それゆえ、あなたはこれを守らなければならない…」

ああ、愛する兄弟姉妹よ、この素晴らしい意味が分かりますか？このすべての真の意義を理解していますか？神の目的が分かりますか？過越祭は、過去の罪の赦しのためのキリストの死を象徴しています。キリストの血を受け入れることは、私たちがこれから犯す罪を赦すものではありません。罪を犯し続けることを許すものでもありません。ですから、私たちがそれを受け入れるとき、赦されるのはその時までの罪、つまり過去の罪だけなのです。

しかし、そこで止まるべきでしょうか？過去の罪は赦されたとしても、私たちは依然として肉体を持った存在です。誘惑に苦しみ続けるでしょう。罪は私たちをその支配下に置き、私たちは罪の奴隷、その力の虜となってきました。そして、私たちは罪から自らを解放する力を持っています

ん！私たちは罪の束縛下に置かれてきたのです。この状況、その意味を理解しましょう。（アームストロング HW. 「過越祭と種なしパンの祭りについて知っておくべきこと」 グッドニュース、1979年3月号）

クリスチャンはどの程度罪を捨てるべきでしょうか？イエスが教えたように、「あなたがたは、天におられるあなたがたの父が完全であるように、完全でありなさい」（Matthew5:48）です。パン種は象徴的に罪の一種と見なすことができます（1 Corinthians 5:7-8参照）。罪と同様に、パン種も膨らみます。

七は神の数であり、完全性を象徴する数字であるため、キリスト教徒は過越祭の後、七日間種なしパンを食べることになっています。しかし、過越祭の意味と象徴は、過越祭だけでは完結しません。過越祭は、過去の罪の赦しのためにキリストの血を受け入れたこと、そしてイエスの死を象徴しているのです。

キリストを象徴的に死の木に吊るしたままにしておくべきでしょうか（Galatians3:13参照）？いいえ。過越祭の後の7日間の種なしパンの祭りは、イエスの犠牲の結果として過去の罪が赦された後、罪が完全に取り除かれ、戒律が守られることを私たちに示してくれるのです。

種なしパンの祭りは、復活したイエスの生涯と働きを象徴しています。イエスは神の玉座に昇天し、今もなお私たちのために大祭司として働き、私たちを罪から清め（Hebrews 2:17-18）、罪の力から完全に解放してくださっています。

ヘブライ語聖書には、種なしパンの祭りについて次のような記述があります。

15七日間は種なしパンを食べなさい。初日には家から酵母を取り除きなさい。初日から七日目まで種入りパンを食べた者は、イスラエルから断たれる。16初日には聖なる集会があり、七日目にもあなたたちのための聖なる集会がある。その日にはいかなる仕事もしてはならない。ただし、各自が食べなければならないものだけは、あなたがたが準備してもよい。17それゆえ、あなたがたは種なしパンの祭りを守らなければならない。この日に、わたしはあなたがたの軍隊をエジプトの地から連れ出すからである。それゆえ、あなたがたは代々にわたってこの日を永遠の定めとして守らなければならない。18第一の月の十四日の夕方から二十一日の夕方まで、種なしパンを食べなさい。19七日間は、家々にパン種があってはならない。パン種のあるものを食べた者は、たとえ異邦人であろうと、その土地の生まれの者であろうと、イスラエルの会衆から断たれるからである。20「あなたがたは酵母入りのパンを一切食べてはならない。あなたがたの住む所では、種なしパンを食べなければならない。」（Exodus12:15-20）

Leviticus 23:6-8にもそれについて書かれています。また、Deuteronomy 16:16には、種なしパンの祭り、五旬節、秋の祝祭日に捧げ物を行うことが期待されていたことが示されています。

もともと、神が「彼らをエジプトの地から連れ出した」とときには、「燔祭やいけにえ」は存在しませんでした（Jeremiah7:22）。それらは不従順のために加えられたものであり（Jeremiah7:21-27）、新約聖書は、今や燔祭や動物のいけにえを行う必要はないと明確に述べています（Hebrews9:11-15）。

毎日種なしパンを食べることで、私たちは周囲の世界に蔓延する罪を避けなければならないことを悟るのです。

処分するか、保管するか？

種なしパンの祭りは廃止されたのでしょうか？ハーバート・W・アームストロングが書いた別のことを考えてみましょう。

旧約聖書では廃止されていない

種なしパンの祭りは、二つの大祭日安息日を含む期間であることに注目してください。そしてこの期間は、イスラエル人がまだエジプトにいたとき、モーセの儀式律法が与えられ、書かれる前、神が古い契約を提案する前から、永遠に定められていました。モーセの律法、つまり古い契約がもたらさなかったり、制定しなかったりしたものは、彼らを取り除くことはできません。フェントンの翻訳では、17節は「したがって、この期間を永遠の制度として守りなさい」と訳されています。期間全体が含まれています。

これだけでも、聖なる日、そして七日間の種なしパンの祭りが、今日だけでなく永遠に拘束力を持つことを証明するはずです！

さて、これらの聖句が14日ではなく15日に適用されるとすれば（実際、14日ではなく15日に適用されることは確実であり、ここで決定的に証明されている）、過越祭は永遠に定められたのでしょうか？まさにその通りです！しかし、上記の聖句は過越祭ではなく、祭りについて言及しています。Exodus 12:21から始まる段落で再び過越祭が言及され、24節でそれが永遠に定められたのです！…

過越祭だけを守り、種なしパンの七日間を守らないということは、象徴的には、キリストの血を受け入れ、罪を犯し続けることを意味する。つまり、「律法は廃止され、私たちは恵みの下にある、つまり罪を犯し続けることが許されている」と言うことになるのだ。

種なしパンの七日間は、十戒を守ることを象徴しており、それは言い換えれば罪を捨てることである。（アームストロング HW.「過越祭と種なしパンの祭りについて知っておくべきこと」グッドニュース、1979年3月号）

初期キリスト教徒は、種なしパンの祭りが廃止されたとは考えていませんでした。使徒パウロは、種なしパンを用いて祭りを正しく守ることを推奨しました（1 Corinthians 5:7）。彼をはじめとする人々は、ユダヤ地方以外でもこの祭りを祝い、遵守していました。

⁶しかし、種なしパンの祭りが終わった後、私たちはフィリピから船出し、五日後にトロアスで彼らに合流し、そこで七日間滞在した。（Acts ^{20:6}）

もしクリスチャンが種なしパンの祭りを守っていなかったなら、聖霊はこのような記録するように促さなかったでしょう。フィリピはマケドニアの異邦人の町でした。ローマの支配下にあったため、これらの祭りを守ることはエルサレムのような場所に限定されていませんでした。新約聖書の少なくとも2箇所、種なしパンの祭りは異邦人の地域でも守られるべきであったことが分かります（1 Corinthians 5:7、Acts 20:6）。

Acts 12:3の「それは種なしパンの祭りの期間中であった」という記述も考慮に入れるべきである。異邦人である著者ルカは、使徒行伝を同じく異邦人に向けて書いた（Acts 1:1）のだから、もしこれらの祭りが異邦人のキリスト教徒には知られておらず、すでに終わっていたとしたら、なぜルカはこれらの祭りについて言及したのだろうか。

おそらく、偽の3 世紀 使徒たちの手紙イエスは弟子たちに、自分が再臨するまで種なしパンの祭りを守るように教えたと言っている。その文書に頼ることはできないが、一部の人がそれらの日を3世紀まで保持していたことを示唆している。

聖書以外の情報によると、使徒パウロ、ヨハネ、フィリポは、スミルナのポリュカルポスや他の初期キリスト教徒と共に、種なしパンの祭りを守っていたと伝えられています（ピオニウス『ポリュカルポスの生涯』第2章）。

それにもかかわらず、キヤノン38はラオディキア公会議4世紀（紀元363～364年頃）の公会議は、種なしパンの祭りの遵守を禁じた。神の教会に属する人々は、聖書や初期の信徒たちの伝統に反するこの公会議の多くの法令に従うことができなかった。

そのため、様々な安息日遵守者はその後も種なしパンの日を守り続け（Pritz. Nazarene Jewish Christianity. Magnas, Jerusalem, 1988, p. 35; Jerome as cited in Pritz, pp. 58,62,63; Ephiphanius. The Panarion of Ephiphanius of Salamis: Book II (sects 1-46) Section 1, Chapter 19, 7-9. BRILL, 1987, p. 117-119）、中世以降も守り続けた（Liechty D. Sabbatarianism in the Sixteenth Century. Andrews University Press, Berrien Springs (MI), 1993, pp. 61-62; Falconer John. A Breife Refutation of John Traskes Judaical and Novel Fantyes, pp. 57-58, as cited in Ball B. 『セブンスデー・メン：イングランドとウェールズにおける安息日遵守者と安息日遵守主義、1600～1800年』（第2版、ジェームズ・クラーク社、2009年、49～50ページ）。

我々がContinuing Church of Godはラオディキア公会議真のキリスト教会を代表して申し上げますが、私たちは今でも種なしパンの祭りを守っています。聖書が勧めているように（Exodus12:15、13:6、23:15、34:18）、7日間毎日種なしパンを食べます。このパンは様々な穀物やナッツで作ることができ、小麦の使用は聖書で義務付けられているわけではありません。

（この祭りの期間中は、種なしパン以外の食べ物も食べてよいが、種入りのパンは食べてはならないということを付け加えておくべきだろう。また、過越祭とは異なり、種なしパンの祭りの最初と最後の日は、週ごとの安息日と同様に、労働をしてはならない日である。）

聖書の多くの部分を寓話的に解釈したがる人もいるが、聖なる祝祭日には確かに霊的な意味合いがある一方で、物理的な意味合いも存在する。そして、物理的な儀式を行うことで、霊的な教訓をより深く理解することができるのだ。

種なしパンの祭りは、私たちクリスチャンが罪と偽善を生活から排除するよう努めるべきであるということを象徴的に示しています（Matthew16:6-12、23:28、Luke12:1参照）。これらの祭りを実際に守ることで、神が意図された霊的な教訓をより深く学ぶことができるのです。

4. ペンテコステ：あなたの召命の真実と神の驚くべき賜物

キリストを信じる人のほとんどは、ペンテコステについて何らかの知識を持っている。多くの人は、ペンテコステを新約聖書の教会の始まりと正しく認識している。

イエスが亡くなった後、弟子たちは聖霊の力を受けるまで待つように言われた。

4そして、彼らと共に集まっているとき、イエスは彼らにエルサレムを離れず、父の約束を待つように命じられた。「それはあなたがたがわたしから聞いたものである」とイエスは言われた。5ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたはまもなく聖霊によってバプテスマを受けるであろう。」（Acts1:4-5）

そこで彼らは待って、

1五旬節の日が満ちたとき、彼らは皆、心をつにして一つの場所に集まっていた（Acts2:1）。

その文は、ペンテコステの日が完全に到来したという事実を強調していることに注目してください。聖書は、その後に起こる出来事が、ペンテコステの日が完全に到来したという事実と直接関係していることを明確にしています。そして、弟子たちにそれが起こったのは、彼らが皆一緒にそれを守っていたからである。

その時何が起こったのか、以下に説明します。

²すると突然、天から激しい風が吹き荒れるような音が聞こえ、彼らが座っていた家全体に響き渡った。³すると、炎のような舌が分かれて現れ、それぞれの舌が彼らの上に

留まった。⁴すると彼らは皆聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、異言で話し始めた。

³⁸するとペテロは彼らに言った、「悔い改めなさい。そして、あなたがた一人ひとり、罪の赦しのためにイエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。」

罪の赦しのためにバプテスマを受け、聖霊の賜物を受けるでしょう。³⁹この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子どもたちにも、遠くにいるすべての人々にも、すなわち、私たちの神である主が召されるすべての人々に与えられているのです。」

⁴⁰そして、イエスは他にも多くの言葉で証言し、彼らに勧めて言われた。「このゆがんだ世代から救われなさい。」

⁴¹そこで、喜んで彼の言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日、約三千人が仲間に加わった。⁴²そして彼らは、使徒たちの教えと交わり、パンを裂くこと、そして祈りにひたすら専念し続けた。⁴⁷神を賛美し、すべての人々から好意を得ていた。そして主は、救われる人々を日々教会に加えてくださった。(Acts ^{2:2-4}、³⁸⁻⁴²、⁴⁷)

彼らは聖霊の力の一部を受けました。そして、これはローマ・カトリック教会、東方正教会、ほとんどのプロテスタント、エホバの証人、そして神の教会グループによってキリスト教会の始まりとみなされています。つまり、聖霊はある特定の時期（多くのユダヤ人がペンテコステを祝ったのと同じ時期）に与えられ、イエスの弟子たちはまだそれを祝っていたのです。

それは偶然ではなかった。

ペンテコステには、もっと深い意味があるのか？

多くの人は、ペンテコステが聖霊の授与や新約聖書時代の教会の始まり以上の意味を持っていたことに気づいていない。

旧約聖書と新約聖書の記述を調べると、この日とその意味についてより詳しい情報が得られます。

ペンテコステの祭りは、最初の祭りの後もキリスト教徒によって守られていましたが、異言を話すことについては言及されていませんでした。使徒パウロは、Acts 2に記されているペンテコステから数十年後もペンテコステを守り続けました。彼が紀元56年頃に書いたことに注目してください。

⁸今は道中であなた方に会いたくありません。主がお許しになるなら、しばらくあなた方と一緒にいたいのです。しかし、私はペンテコステまでエフェソにとどまります（¹ Corinthians 16:8）。

これは、パウロがペンテコステの日付を知っていたこと、コリントの信徒たちはペンテコステの日付を知っているはずだと考えていたこと、そしてエフェソの信徒たちもペンテコステの日付を知っていたであろうことを示している。したがって、ペンテコステはパウロとエフェソとコリントの異邦人によって祝われていたようである。

また別の年には、使徒パウロも西暦60年頃のペンテコステの祭りにエルサレムにいたいと願っていた。

16パウロはアジアで時間を過ごす必要がないように、エフェソスを通り過ぎることに決めていた。

できればペンテコステの日にエルサレムに到着したかったからである（Acts 20:16）。

つまり、エルサレムのキリスト教徒たちはまだペンテコステを祝っており、パウロもそれを祝っていたのだ。そうでなければ、パウロがペンテコステの日にエルサレムにいたいと思った明確な理由はないだろう。

ペンテコステという用語は、50を意味するギリシャ語です。その用語は、日付を計算する際の以下のヘブライ語の説明に由来する。

15そして、安息日の翌日から、すなわち、揺り動かす捧げ物の束を携えて来た日から数えて、七つの安息日が満了する。16第七の安息日の翌日から50日間数える（Leviticus23:15-16）。

ペンテコステの日にはいくつかの呼び名があり、そのため混乱する人もいます。聖書におけるその他の呼び名としては、収穫祭、七週祭、初穂祭などがあります。

ユダヤ教の伝統とペンテコステはいつなのか？

歌は、日没から始まる神の聖なる祭りにしばしば伴った。

²⁹あなた方は、聖なる祭りの夜のように歌い、笛を吹いて主の山、イスラエルの力ある方のところへ行くときのよう
に、心の喜びを持つであろう。（Isaiah ^{30:29}）

現代のユダヤ人はペンテコステを次のように呼ぶ傾向がある。シャブオット。

ペンテコステがいつなのか混乱している人もいる。多くのユダヤ人は、Continuing Church of Godがそれを守っているのと同じ日には守っていない。

ユダヤ教のサドカイ派は「ペンテコステは常に日曜日に当たる」と正しく述べていましたが、タルムード以降の文献やゲオニム文献では、ペンテコステはシワンの6日に当たるとされています（ピネレス著『ダルケ・シェル・トーラー』212ページ、ウィーン、1861年；ペンテコステ。1906年ユダヤ百科事典）。現在多くのユダヤ人が使用している日付（旧約聖書の後にまとめられたタルムード以降の文献にあり、聖書ではありません）は、後世の変更であり、聖書の日付ではありません。Continuing Church of Godは聖書に基づいた方法を遵守する。

また、元首席ラビのロード・サックス氏の以下の発言にも注目してください。

口伝律法と成文律法の両方を信じていたファリサイ派は、ここでいう「安息日」とは、過越祭の初日（ニサン15日）を意味すると理解した。成文律法のみを信じていたサドカイ派は、この文言を文字通りに解釈した。安息日の翌日は日曜日である。したがって、暦の始まりは常に日曜日であり、50日後のシャブオットも常に日曜日となる。（サックス・L.『ユダヤ教：シャブオットへの考察』アルーツ・シェバ、2014年6月3日）

キリスト教徒は、イエスがパリサイ人たちが成文律法よりも口伝律法に頼りすぎていることを非難したことを覚えておくべきです（Mark7:5-13）。イエスは彼らに、「あなたがたは、自分たちが言い伝えてきた伝統によって、神の言葉を無効にしている。そして、あなたがたはこのようなことを数多く行っている」と言いました（Mark7:13）。

そして、以下に示すように、ペンテコステとは、初穂と関連付けられる50を数える時期を指します。

16第七の安息日の翌日まで五十日間数えなさい。その日に、あなたは主へ新しい穀物の捧げ物をささげなさい。17あなた方は、住まいから、十分な2エファの小麦粉で作った、二個の揺り動かすパンを持って来なければならない。それは上等の小麦粉で、酵母を入れて焼いたものでなければならない。これらは主への初穂である。(Leviticus23:16-17)

7番目の安息日からちょうど50日後を数えると、ペンテコステは必ず日曜日に来ることがわかります。ペンテコステは土曜日の日没から日曜日の日没まで続きます。スミルナのポリュカルポスに会ったと主張するイレナイオスは、使徒たちがペンテコステを日曜日に祝ったと書いています（イレナイオスの断片、7）。

初穂

「初穂」という言葉の使用は、二度目の収穫を示唆している。そして実際、このことは旧約聖書にも記されている。

16…収穫祭、あなたがたが畑に蒔いた労苦の初穂の祭り。17そして、あなたがたが畑から労働の成果を収穫したとき、年末には収穫祭がある(Exodus23:16-17)。

26また、初穂の日、あなたがたが七週の祭りで主への新しい穀物の捧げ物を携えて来るときには、聖なる集会を開かななければならない(Numbers28:26)。

プロテスタントの解説者の中には、初穂の捧げ物を初穂祭と呼ぶ者もいるが（例えば、Radmacher E.D. 編『ネルソン聖書研究』トーマス・ネルソン出版、ナッシュビル、1997年、213ページ）、これは誤称です。確かに、当時「初穂の束」が捧げられましたが(Leviticus23:10-11)、上記のように、聖書は初穂の時期を七週祭と呼んでいます（単に一束だけではありません）。

初穂の概念は、この日を理解する上でどのように役立つのでしょうか？

ペンテコステの祭り、または初穂の祭り（Exodus34:22）は、神が今は小さな「初穂」の霊的な収穫だけを召しておられ、後に来る最後の偉大な日には、より大きな収穫が待っていることを私たちに思い出させてくれます。ほとんどの地域では、春の収穫は秋の収穫よりもはるかに小さく、これは人類に対する神の救済計画と一致しています。

しかし、イエスはどうか？彼は初穂の象徴ではなかったのでしょうか？

はい、確かにそうでした。ポールはこう述べています。

²⁰しかし今やキリストは死者の中から復活し、眠りについた者たちの初穂となられた。²¹なぜなら、死は人によってもたらされたのだから、死者の復活もまた人によってもたらされたのである。²²アダムにあってすべての人が死ぬように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。²³しかし、それぞれに順序があります。まずキリストが初穂として、次にキリストの再臨の時にキリストに属する者たちが挙げられます。（¹ Corinthians ^{15:20-23}）

キリストはLeviticus 23:10-11にある初穂の捧げ物の成就です。彼は初穂の束です。また、復活後、日曜日（初穂の捧げ物は日曜日に捧げられました）に天に昇られた時にも、その役割を果たされました（John20:1,17）。しかし、彼も彼の真の弟子たちも、現在イースターと呼ばれる祝日を祝いませんでした。

また、ヤコブは、イエスが私たちが初穂の型として生み出したことを指摘している。

18神はご自身の意志によって、真理の言葉によって私たちを生み出してくださいました。それは、私たちが神の被造物の中で、ある種の初穂となるためです（James1:18）。

イエスは初穂として捧げられた初穂であり、初穂の束を象徴していましたが、真のクリスチャンはペンテコステの日に象徴される初穂の一種です。「初穂」とは、この時代に収穫にあずかるのはごく少数であることを意味します（Luke12:32、Romans9:27、11:5参照）。しかし同時に、より大きな収穫、つまりこれまで救いの機会がなかったすべての人が後に真の救いの機会を得る時が来ることも示唆しています。

ペンテコステの日にペテロが述べたことに注目してください。

29「兄弟たちよ、族長ダビデについて率直に申し上げましょう。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあります。」³⁰それゆえ、預言者である彼は、神が彼に誓って、肉によれば、彼の体から生まれた子の中からキリストを立てて、その王座に座らせると約束されたことを知っていた。³¹彼はこれを予見し、キリストの復活について、その魂はハデスに留まらず、その肉体も朽ち果てなかったと語った。³²このイエスを神はよみがえらせた。私たちは皆、その証人である。³³それゆえ、神の右の座に高められ、父から聖霊の約束を受け、あなたがたが今見聞きしているこの聖霊を注がれたのです。（Acts 2:29-33）

ペンテコステの日にペテロがイエスを実にたとえ、復活したと述べたことに注目してください。ペンテコステは、神がこの小さな

収穫を祝福し、聖霊を与えてくださることを示しています。それによって私たちは、「今の悪しき時代」（Galatians1:4）に生きていても、神の御業を成し遂げ、霊的に成長することができるのです。

イエスは初穂の最初であっただけでなく、多くの兄弟姉妹の中でも長子でもあった。

29神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子の姿に似た者となるように定められた。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となるためである（Romans8:29）。

イエスは長子であるため、当然のことながら、イエスに似た者となるべき人々が現れるでしょう。したがって、イエス・キリストに似た者となることも、ペンテコステのメッセージの一部です。もちろん、キリストに似た者となるという考えは聖書全体を通して教えられており、ペンテコステに限ったことではありません。ヨハネが書いたことに注目してください。

2…私たちは彼に似た者となるでしょう（¹ John 3:2）。

聖なる集会であるため、週ごとの安息日と同様に守られますが、供え物を捧げます（Deuteronomy16:16）。旧約聖書では、初穂を捧げる七週祭は、過越祭後の安息日から50日後に祝われました。

キリストの死後、使徒たちはその日に集まりました。そしてその日に、聖霊が注がれ、クリスチャンが神に近づくことができるようになりました。これは一種の初穂のようなものです。イエスはこれらの初穂の最初の人であり、この時代に召されたクリスチャンも、イエスと同じように初穂となるべきです（後に召された人

々もイエスと同じようになるべきですが、初穂にはならないでしょう）。

エルサレム以外でも聖日を祝うことはできますか？

聖書に定められた聖なる祝祭日は、全員がエルサレムに行かなければならないため、現在では守ることができないという意見もある。

しかし、歴史的に見ると、イエスの場合でさえ、そうではなかった。

ナザレでの宣教活動の初期に、イエスは「安息日（複数形）」について語りました（Luke4:16）。ペンテコステは「七週祭／安息日祭」とも呼ばれます（Deuteronomy16:10,16）。ルカが複数形を意図していたことは、実際のギリシャ語の語句を見れば確認できます。安息日を表す実際の語句（ストロング番号による同類語のグループとしてではなく） $\sigma\alpha\beta\beta\acute{\alpha}\tau\omega\nu$ は複数形である（Luke14:1にある $\sigma\alpha\beta\beta\acute{\alpha}\tau\omega$ は単数形である）。この箇所は文字通り次のように翻訳される。

¹⁶そしてイエスは、育ったナザレに来られた。そしていつものように、安息日に会堂に入り、聖書を朗読するために立ち上がられた。（Luke ^{4:16}、グリーン訳）

つまり、これはイエスがエルサレム以外の場所でも聖日を守ることができたということを示すのに役立つ。Luke 6:1-2では、イエスはガリラヤでも別の聖日を守っていた可能性があるように思われる（Green JP, Sr. Interlinear Greek-English New Testament, third edition. Baker Books, 2002）。

おそらく言及しておくべきなのは、サマリアの女が礼拝はエルサレム地域に限定されるべきかもしれないと示唆したとき（John4:19）、イエスはエルサレムでの礼拝に制限はないと言ったことである。

²¹イエスは彼女に言われた。「女よ、わたしを信じなさい。あなたがたがこの山でもエルサレムでもなく、父を礼拝する時が来る。²²あなた方は知らないものを拝んでいるが、私たちは自分が拝むものを知っている。救いはユダヤ人から来るのだから。²³しかし、真の礼拝者たちが霊と真理をもって父を礼拝する時が来ます。いや、今がその時です。父は、そのような礼拝者を求めておられるからです。²⁴神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。（John 4:21-24）

新約聖書は、聖日やその他の礼拝がエルサレムに限定されるものではないことを明確に示している（Matthew 10:23、23章24節も参照）。

ギリシャ・ローマ教会もまた、ペンテコステ（旧約聖書では七週祭（Leviticus23:15-16）または初穂祭（Numbers28:26）とも呼ばれる）がキリスト教的な意義を持つことを認識していたことに留意すべきである。そして、彼らはその祝祭を特定の都市に限定していなかった。

また、クリスチャンが初穂であるという考えは新約聖書でも確認されています（James1:18）。古代イスラエルでは、春には少量の収穫があり、秋には大量の収穫がありました。春の聖なる日であるペンテコステを正しく理解すれば、神は今、一部の人々だけ

を救いに召しておられ（John6:44、1 Corinthians1:26、Romans11:15）、後にはより多くの収穫が訪れる（John7:37-38）ということイメージするのに役立ちます。

多くのギリシャ・ローマ教会は、何らかの形でペンテコステを祝います。しかし、聖書に記された他の聖なる日を祝わないこともあり、なぜ神が今一部の人々だけを召しておられるのか、そして神はすべての人に救いを与える計画をお持ちである（Luke3:6、Isaiah52:10）ということを理解できていません。「憐れみは裁きに勝つ」（James2:13）。

5. ラッパの祭り：キリストの再臨とそれに至る出来事

ギリシャ・ローマ系の教会のほとんどは、一般的に秋に祝われる聖書の祝祭日を守っていません。しかし、これらの祝祭日は、神の計画における多くの重要な出来事を表しています。

ラッパの祭りは、キリストが初穂を死者の中から復活させるために来臨する様子を描いているだけでなく、そのすぐ後に迫る恐ろしい破壊の時代と、イエス・キリストが介入して生きている人々を完全な滅亡から救い、地上に神の王国を確立する様子も描いている。

この祭りが神の壮大な計画の中でどのような位置づけにあるのかを理解しましょう。

ペンテコステの日とラッパの祭りの間には、かなりの時間的隔りがあることを考えてみてください。新約聖書の教会はペンテコステに始まり、基本的にイエスが最後のラッパの音とともに再臨する時に終わる（1 Corinthians 15:51-57）ので、ある意味でペンテコステからラッパの祭りまでの期間は、教会の時代を表していると考えられます。

4番目の聖日であるラッパの祭りは、「第七の月の第一日」に祝われます（Leviticus 23:23-25）。

神の計画において、数字の7は完成と完全を象徴します。神の暦の7番目の月（9月または10月）には、最後の4つの祭りが含まれており、私たちに対する神の偉大な計画の完成を表しています。

この月の初日に行われる祭りは、神の計画における最後の出来事の始まりを告げるものです。

それは、通常の労働から解放される年に一度の安息日であり、ラッパを吹くことを記念する日でもありました（Leviticus23:24-25）。また、神の道を学ぶ時でもあります（Nehemiah8:2-3、Ezra 3:1-7参照）。イスラエルの民に起こった出来事の多くは、「世の終わりに生きる私たちへの教訓として、また戒めとして」記されたのです（1 Corinthians10:11）。

トランペットの祭りという名前は、トランペットを吹くことから来ている。

これらのラッパを吹くことには、特に私たちが生きている終末の時代に関して、多くの象徴的な意味が込められています。この日付の現代ユダヤ教の名称であるロシュ・ハシャナは、聖書に由来するものでも、ユダヤ人が元々使っていたものでもありません。これは、神がユダヤ人に与えてから何世紀も後、旧約聖書が書かれた後にユダヤ人が採用したものです（エイミー・J・クレイマー 著『ロシュ・ハシャナの起源』、著作権 © 1998-1999 Everything Jewish, Inc.）。

聖書は、ラッパは神の祭りを告げるため、また人々を集めるために吹かれたと教えている（Numbers10:1-3、10）。

生命の書

興味深いことに、ユダヤ教の学者たちは、ラッパの祭りを「生命の書」と結びつけています（ペルツ M、ラビ。「ロシュ・ハシャ

ナの挨拶には何が含まれているのか？」ハアレツ、2012年9月17日）。なぜそれが興味深いのでしょうか？

聖書は、「命の書」に名前が記されている者（Philippians4:3、Revelation3:5）は復活すると教えています（Hebrews12:22-23）。いつ復活するのでしょうか？第七の、最後のラッパの音とともにです。

⁵¹見よ、私はあなた方に一つの奥義を告げよう。私たちは皆眠りにつくわけではないが、皆変えられるのだ。⁵²一瞬のうちに、瞬きする間に、最後のラッパの音とともに。ラッパが鳴り響くと、死者は朽ちない体によみがえり、私たちは変えられるのです。⁵³この朽ちるべきものが朽ちないものを着なければならず、この死ぬべきものが不死を着なければならない。（¹ Corinthians 15:51-53）

ヨハネの黙示録は、七つのラッパが吹かれ（8:2）、神に守られていない者には罰が下され（9:4）、その後、神の王国と裁きが訪れる（11:15-18）ことを明確に教えています。そして最後に、命の書に名前が記されていない者は第二の死を経験すると教えています（Revelation20:14-15）。

トランペットが鳴り響く

聖書によれば、紛争や反乱が絶えなかったイスラエルの歴史において、ラッパは警告の合図、戦闘への招集、あるいは重要なメッセージの前奏曲として用いられ続け、常に国家全体にとって極めて重要な出来事を告げるものであったことが示されている。

神はまた、イザヤ、エゼキエル、ホセア、ヨエルといった預言者たちを用いて、イスラエルが神の律法に絶えず反逆したことに対する罰について警告した。これらの預言者たちは、ラッパのように声を響かせ、神の民に警告を告げる役割を担っていた。

1大声で叫べ、ためらうな。ラッパのように声を上げよ。わたしの民に彼らの背きを、ヤコブの家に彼らの罪を告げよ。(Isaiah58:1)

私たちはContinuing Church of Godは今日、まさにそのように活動しています。私たちは社会の罪を大胆に訴え、世界の出来事が正しく理解された預言と一致していることを伝え、その預言についても説明に努めています。

しかし、ヨハネの黙示録が教えているように、将来は文字通りのラッパの音が鳴り響くでしょう(Revelation8:1-13、9:1-18)。しかし、ほとんどの人はその警告に耳を傾けないでしょう。

ヨハネの黙示録には多くのラッパが吹かれており、ラッパの祭り(Leviticus23:24)には多くのラッパが吹かれることになっていました。多くの人がその関連性に気づいてくれることを願います。

しかし、ある意味で最も重要なラッパは、最後の、つまり7番目のラッパかもしれません。黙示録はそれについて次のように教えています。

15それから第七の天使がラッパを吹いた。すると天で大きな声が響き渡り、「この世の王国は王国我らの主とキリストの御名によって、主は世々限りなく統治されるであろう！¹⁶そして、神の前に座っていた二十四人の長老たちは顔

を地に伏せて神を礼拝した。¹⁷「全能の主なる神よ、今おられ、かつておられ、やがて来られる方よ、私たちはあなたに感謝します。なぜなら、あなたは偉大な力をもって統治されたからです。¹⁸諸国は怒り、あなたの憤りが臨んだ。死者が裁かれる時が来た。あなたはあなたのしもべである預言者と聖徒たち、そしてあなたの御名を畏れる者たち、小さい者も大きい者も、報いを与え、地を滅ぼす者たちを滅ぼすであろう。」¹⁹すると天にある神の神殿が開かれ、その中に神の契約の箱が見えた。すると稲妻、轟音、雷鳴、地震、そして大きな雹が起こった。(Revelation ^{11:15-19})

ラッパの祭りは、将来ラッパが鳴り響く様子と、イエスが来臨して地上に神の国を建てるという現実を象徴しています。神の国の到来という良き知らせは、イエスが今、しもべたちに宣べ伝えることを望んでおられることの大きな部分を占めており (Matthew 24:14、28:19-20)、その後、終わりが訪れます (Matthew 24:14)。ラッパの祭りは、キリストがこの世に勝利することを指し示しているのです。

ギリシャ・ローマの歴史家、例えばヒエロニムスやエピファニウス (『Catholica Omnia Tabulinum De Ecclesiae Patribus Doctoribusque Materia Migne JP Argumentum Patrologia Latina Volumen MPL025 Ab Columna ad Culumnam 1415 - 1542A』、922、930頁、およびエピファニウス (『Ephiphanius. The Panarion of E phiphanius of Salamis: Book II (sects 1-46) Section 1, Chapter 1 9, 7-9. Frank Williams 編。出版社 BRILL、1987年、117-119頁)) は、「ナザレ派キリスト教徒」が4世紀から5世紀にかけて秋の

聖日を守り続けていたことを記録している。エルサレムの忠実なキリスト教徒も、エルサレムのキリスト教の建物の起源を主張し、4世紀までこれらの聖日を守っていたが、帝国当局によって阻止された（『Pixner B. Church of theシオン山で使徒の遺骨が発見された。（聖書考古学レビュー、1990年5月/6月号：16-35、60））。

反ユダヤ主義者のヨハネス・クリュソストモスは、4世紀後半に特にラッパの祭りを人々が守るのを阻止しようと試みた（ヨハネス・クリュソストモス『ユダヤ人に対する説教』第1篇、第1章5節、第6章5節、第7章2節）。しかし、信仰を守ろうとする人々は歴史を通じてそれを続けてきた。Continuing Church of Godは現在そうしている。

6. 贖罪の日：サタン追放

次の秋の祝日は贖罪の日です。

26主はモーセにこう言われた。27「また、この第七の月の十日は贖罪の日である。それはあなたたちにとって聖なる集会の日である。あなたたちは自らの魂を苦しめ、火による捧げ物を主にささげなければならない。」28その日は一切の仕事をしてはならない。それは贖罪の日であり、あなた方の神、主の前であなた方のために贖罪を行う日だからである。29その日に心の苦しみを感じない者は、その民から断たれるであろう。30そして、その同じ日に何らかの仕事をする者は、その民の中から滅ばし尽くすであろう。31あなた方はいかなる仕事もしてはならない。これはあなた方のすべての住居において、代々にわたって守るべき永遠の掟である。32それはあなたたちにとって厳粛な安息日であり、あなたたちは心を落ち着かせなければならない。その月の九日の夕方から夕方まで、あなたたちは安息日を守らなければならない。」（Leviticus23:26-32）

7「この第七の月の十日には、聖なる集会を開かなければならない。あなたたちは身を慎み、いかなる仕事もしてはならない。」（Numbers29:7）

歴史的に、「魂を苦しめよ」というフレーズは、ユダヤ教徒や神の教会の共同体によって主に断食を意味すると解釈されてきました（これはPsalm35:13、69:10、Isaiah58:5などの聖句によっても裏付けられています）。ただし、何らかの病気にかかっている既に苦しんでいる場合は除きます。夕方から夕方とは、日没から日没までを意味します。

新約聖書自体が贖罪の日を「断食」（Acts27:9）と呼んでおり、これは使徒パウロが断食を守っていたこと（Acts21:18-24、28:17の記述から、彼が断食を守っていたことは明らかである）を示すだけでなく、ギリシャ語名テオフィロス（Acts1:1で使徒行伝の

宛先となっているクリスチャン）も断食を守っていたに違いない。そうでなければ、別の用語が使われていたはずだ。

神の教会に所属する敬虔な信者は、今夜の日没から翌日の日没まで断食を行います（身体的に可能な場合。授乳中の母親、幼児、妊婦、その他様々な病気を抱えている人は断食する必要はありません。これはユダヤ教の慣習にも合致しています）。この断食では、飲食を一切行いません。

奇妙なことに、あるプロテスタントの報告書は、キリスト教徒が贖罪の日を守る必要がない理由の一つは、今日ユダヤ教の神殿が存在しないからだと主張している（コシエレル BL. キリストの信徒は贖罪の日に断食すべきか？）。しかし、聖書の真実は、イスラエルの民は神殿ができる何世紀も前から贖罪の日を守っていたということであり、もう一つの真実は、新約聖書がキリスト教徒こそが今や神の神殿であることを示しているということである（1 Corinthians 3:16-17）。

ヤギ2匹

旧約聖書では、贖罪の日にはアザゼル山羊を荒野に送る儀式が含まれていました（Leviticus16:1-10）。一部のキリスト教徒は、このアザゼル山羊の追放は、千年王国においてサタンが底なしの穴に千年閉じ込められる時を象徴していると解釈しました（Revelation20:1-4）。これは、その間サタンが人々を誘惑したり欺いたりすることができなくなることを意味します。イエスの犠牲があったため、この日を祝うために山羊を犠牲にすることはありません（Hebrews10:1-10参照）。

イエスは私たちのために犠牲にされた過越の小羊であり（1 Corinthians 5:7-8）、一度だけ屠られた（Hebrews 9:28）が、過越祭以外にも、イエスが儀式的に屠られた時があることも分かっている。

なぜ？

多くの人が憶測を巡らせているが、この生贄が2頭目のヤギの放牧前に行われるという事実にも、何らかの手がかりがあるかもしれない。

本来の過越祭は、イスラエルの民が罪を免れるという結果に過ぎませんでした。現代において、真のクリスチャンは、イエスが地上での最後の過越祭で私たちの罪の代価を支払ってくださったことを信じています。しかし、真のクリスチャンは世界人口のごく少数派です（Luke12:32、Romans11:5）。

聖書はサタンを「この世の神」であり、世を「盲目にした」（2 Corinthians 4:4）と呼んでいるので、ほとんどの人は盲目にされており、まだイエスの犠牲によって覆われていません。しかし、これはこの世か来世で召されるほぼすべての人に起こるでしょう（Matthew 12:32）。教会時代が終わった後に儀式的に犠牲を示すことは、イエスの犠牲が教会時代に召された人々のためだけのものではなかったことを示すのに役立ちます。なぜなら、神の計画には、今日の選ばれた人々だけでなく、すべての人に救いを与えることが含まれているからです。

もう一匹のヤギが解放される前に犠牲が捧げられた様子を示すことで、イエスがサタンの罪を取り除いていたわけではないことが示されている。

イエスは全人類の罪を身代わりとなって負われました。しかし、それは神が私たちを召し、悔い改めを与えてくださり（John6:44）、私たちが悔い改め、信じるようになるまでは、人間には適用されません。イエスだけでなく、御子と御父を信じ、つまり、彼らが語られることを信じるのです。また、悔い改め、洗礼を受け、聖霊を授けられ（Acts2:38）、実際に彼らが望むように生きようと努力することによって、それを証明します（1 John2:6参照）。

歴史を通じて保存されてきた

贖罪の日は4世紀にヨハネ・クリュソストモスによれば、守られていたとされ、彼はそれに反対する説教を行った（ヨハネ・クリュソストモス『ユダヤ人に対する説教』第1講、第1章5節、第6章5節、第7章2節）。

これは、この頃それを禁止しようとしたシリアの使徒法典（Apostolic Canons）第69/70条にも見られる（Seaver JE. Persecution of the Jews in the Roman Empire (300-438), Issue 30 of University of Kansas publications: Humanistic studies. University of Kansas Publications, 1952, pp. 34-35）。

5世紀から10世紀にかけてのイスラム教の文書には、イエスとその弟子たちがユダヤ人と同じ日に断食を行ったと記されている。これは、ユダヤ・キリスト教徒が贖罪の日を守っていた一方で、ギリシャ・ローマ人が50日間の四旬節を考案したことを示している。

イエスが守らなかった断食期間（Tomson P. Lambers-Petry L. The Image of the Judaeo-Christians in Ancient Jewish and Christian Literature, Volume 158, 2003, pp. 70-72; Stern SM. Quotations from Apocryphal Gospels in 'Abd Al-Jabbar. Journal of Theological Studies, NS. Vol. XVIII, (1) April 1967: 34-57）。他の歴史家による報告もこの見解を支持している（例：パインズ、32～34ページ）。さらに、16世紀にはトランシルヴァニアに保管されていたという歴史的記録も見られます。（リーヒティ、61-62頁）。

旧ラジオ教会は20世紀を通して贖罪の日（およびその他の聖日）を祝った。私たちContinuing Church of Godは今日でもそれを守り続けている。

7. 仮庵の祭り：キリストの統治下における世界の姿を垣間見る

仮庵の祭りは、神の計画における最高潮の出来事を表しています。イエスが私たちの罪のために死んで人類を贖い、聖霊を遣わし、御名のために民を選び、地上でイエスと共に統治する王と祭司とならせた後（Revelation 5:10）、そしてイエスの再臨の後、最終的にすべての罪をサタンの頭に負わせ、サタンと罪を神と神の民の臨在から引き離した後（私たちを最終的に神と一つに結びつけ、贖罪を成し遂げた後）、私たちは地上における神の千年王国の設立という、最後の一連の出来事の始まりを迎える準備が整うのです。

仮庵の祭りは、イエス・キリストの千年王国時代に人々がサタンの欺瞞に惑わされることなく神の律法を守るようになる時に訪れる、霊的および物質的な豊かさを象徴しています（Revelation 20:1-6）。これは、サタンに欺かれていた現在の世界とは対照的です（Revelation 12:9）。その時までには消え去るサタンの欺瞞（Revelation 20:1-3）は、キリスト教を公言する人々の多くが「善良な」偽牧師に惑わされてきた理由の一つであり、また、そうした牧師の多くが惑わされてきた理由の一つでもあります（2 Corinthians 11:14-15）。

イエス自身も仮庵の祭りを守り、John 7:10-26でそのことを教えた。

ヘブライ語聖書には、それに関するいくつかの指示が記されています。

³³それから主はモーセに語りかけ、こう言われた。³⁴「イスラエルの子らに告げよ。『この第七の月の十五日は、主のための七日間の仮庵の祭りである。³⁵初日は聖なる集会が開かれる。その日には、いかなる通常の仕事も行ってはならない。

41あなた方はこれを、年に七日間、主への祭りとして守らなければならない。これはあなた方の代々にわたって永遠の定めとなる。あなた方はこれを第七の月に祝わなければならない。42あなた方は七日間仮小屋に住まなければならない。イスラエル人である者は皆、仮小屋に住まなければならない。(Leviticus23:33-35,41-42)

¹³「あなた方は仮庵の祭りを七日間守らなければならない。…¹⁴そして、あなたとあなたの息子、娘、あなたの男奴隷、あなたの女奴隷、レビ人、寄留者、孤児、寡婦、あなたの町の中にいる者たちと共に、あなたたちは祭りを喜び祝うべきである。¹⁵七日間、主が選ばれる場所で、あなたの神、主のために聖なる祭りを守りなさい。あなたの神、主は、あなたのすべての収穫とあなたの手のすべての働きを祝福し、あなたが必ず喜ぶようにするためである。

¹⁶「あなたがたの男子は、年に三度、主なるあなたがたの神が選ばれる場所で、主の前に出なければならない。すなわち、種なしパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りの時である。彼らは主の前に手ぶらで出てはならない。」¹⁷人はそれぞれ、主なるあなたの神があなたに与えてくださった祝福に応じて、自分の力に応じて与えなければならない。(Deuteronomy ^{16,13-17})

神は古代イスラエルを、約束の地に入る何十年もの間、荒野の仮小屋（ヘブライ語で「スコット」）に住まわせました。これらの仮小屋は、ある意味で、彼らが約束の地の相続人に過ぎないことを象徴していました。千年王国において、神の王国が地上の諸国を統治する時でさえ、地上の人々は王国の相続人に過ぎません。彼らは約束を受け継ぐために、困難を克服し、知識と知恵を深めていかなければならないのです。

神はエフライム（聖書では時に全イスラエルの象徴として描かれる）について、「祭りの日のごとく、幕屋に住むであろう」（Hosea12:9、ドゥエ・ランス訳）と述べています。荒野にいたイスラエルは、約束を受け継ぐために試練と苦難を経験しなければならないすべての民の象徴でした（1 Corinthians10:11）。彼らは旅人であり、神の約束を受け継ぐのを待っていたのです。

私たちクリスチャンは、この世には永遠の都はなく、来るべき都を待ち望むべきである（Hebrews13:14）。仮庵の祭りの期間中、仮の住居に滞在することは、そのことを思い起こさせる助けとなる。クリスチャンは、仮庵の祭りの期間中、可能であれば毎日教会礼拝に出席し、（Deuteronomy31:10-13、Nehemiah8:17-18）生きた供え物となること、すなわち「理にかなった奉仕」（Romans12:1）について学ぶべきである。

仮庵の祭りは喜びの時である（Deuteronomy 14:26、16:15）。関連する十分の一税（一般に「第二の十分の一税」と呼ばれる）の使用は、この時代が豊かさの時代であることを示している（Deuteronomy 14:22-26）と同時に、この時代には奉仕が大切にされるべきであることも示している（Deuteronomy 14:27）。仮庵の祭

りは、千年王国の豊かさの時代をイメージするのに役立つ。これは、イエスが再臨した後の時代を垣間見せてくれる。

千年王国は、神の7000年計画の7日目にあたります。興味深いことに、7年ごとに律法の書は仮庵の祭りで朗読されることが命じられていました（Deuteronomy 31:10-13）。これは、十戒を含む律法が千年王国でも守られることを示唆しています。聖書によれば、その時に律法が教えられるからです（Isaiah 2:2-3。十戒に関する詳細は、無料のオンライン小冊子『The Ten Commandments』をご覧ください）。千年王国時代に祝福と豊かさをもたらすのは、神の律法に従って生きることです。

私たちキリスト教徒は今、来るべき千年王国と、最後のラッパの音とともに起こる変化（1 Corinthians 15:52）を待ち望んでいます。それはまた、第一の復活とも呼ばれています。

⁴そして私は、玉座を見た。人々がその上に座っており、裁きは彼らに委ねられていた。それから私は、イエスへの証しと神の言葉のために首をはねられた人々の魂を見た。彼らは獣とその像を拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。そして彼らは生き返り、キリストと共に千年間統治した。（Revelation ^{20:4}）

聖書によれば、イエスが教会を御自身のもとに集め、私たちが共に統治することになる玉座に着座された後、イエスは諸国を御前に集め、クリスチャンたちにこう言われるでしょう。

³⁴さあ、わたしの父に祝福された者たちよ、王国を受け継ぎなさい

天地創造の時からあなたたちのために用意されていたのです。（Matthew 25:34）

さて、仮庵の祭りを守る人々は、この祭りが千年王国をイメージするのに役立つため、楽しみにしている。

2世紀初頭、ヒエラポリスのパピアスは次のように述べた。

死者の復活後、およそ千年ほどの期間があり、その間にキリストの王国がこの地上に物質的な形で設立されるだろう。

仮庵祭の遵守は、新約聖書の時代から敬虔なキリスト教徒が守り続けてきた、来るべき神の千年王国の予兆である。

どこに保管すれば良いですか？

仮庵の祭りは本質的に「巡礼」（Psalm84:1-5）の期間であり、通常は自分の普段のコミュニティの外への旅行を伴います。イエスは地上にいたとき、人間と共に「仮庵」を営みました（John1:14のギリシャ語ἐσκήνωσενは、Green JP著『ギリシャ語-英語対訳新約聖書』Baker Books、1996年、第5版2002年、282ページによると、このように訳すことができます）。

仮庵の祭りは過去から現在に至るまでエルサレムでのみ行われるべきだと誤って主張する人もいますが、これは間違いです。イスラエルの民は、Leviticus 23に仮庵の祭りの遵守に関する命令が記されてから何世紀もの間エルサレムに住んでいませんでした。したがって、エルサレムは彼らにとって当初の選択肢ではありませんでした。聖書は、仮庵の祭りはエルサレム以外の都市でも行うことができることを示しています（Nehemiah8:15、Deuteronom

y14:23-24参照)。第二神殿時代（紀元前530年～紀元後70年）には、ユダヤ人はしばしば他の場所で仮庵の祭りを行いました（ハイム・シャウセは、「仮庵の祭りはエルサレム以外でも盛大な祭りだった」と述べています。シャウセ H.『ユダヤの祭り：その歴史と遵守の手引き』1938年、ショッケン、184ページ）。

また、2世紀にスミルナのポリカルポスが（ポリュカルポスの生涯、第19章）および小アジアの他のいくつかの地域では、4世紀後半に仮庵祭はエルサレムではなく小アジアで祝われていた。これは、カトリックの聖人ヒエロニムス（『パトロロギア・ラティーナ』第25巻、1415年 - 1542年A）などの資料や、20世紀の研究によって確認されている。ジャン・ダニエルー枢機卿（ダニエルー、ジャン＝グエノール＝マリ＝枢機卿。『ユダヤ教キリスト教の神学』ジョン・A・ベイカー訳。ウェストミンスター・プレス、1964年、343-346頁）。

19世紀の千年王国説反対派の学者、ジョヴァンニ・バッティスタ・パガーニは、3世紀のエジプトの司教ネポスと千年王国説を支持する人々について、次のように記している。

…ユダヤ教の思想に基づいて千年王国を説き、千年王国の期間中にモーセの律法が回復されると主張する者たち…彼らはユダヤ教の千年王国論者と呼ばれているが、それはユダヤ人だからではなく、ユダヤ教の思想に基づいて千年王国を考案し、擁護したからである…この誤謬の主な提唱者は、聖ディオニュシウスが『約束』に関する2冊の書物を著したアフリカの司教ネポスと、聖エピファニウスが異端に対する著作で論破したアポリナリスである。（パガーニ

、ジョヴァンニ・バッティスタ。チャールズ・ドルマン出版、1855年、252-253頁)

ネポス司教もアポリナリス司教もユダヤ人ではなかったにもかかわらず、「ユダヤ教」的な信仰を持つ宗教を信仰していたとして非難されたことは注目に値する。アポリナリスはカトリックの聖人と呼ばれていることから、3世紀初頭の尊敬を集めた非ユダヤ人のキリスト教指導者たちが、寓話主義者たちによって非難された思想を確かに持っていたことは明らかである。彼らが「モーセの律法」を遵守していたという事実は、彼らが仮庵祭の意味を理解し、キリスト教的な意味合いでそれを守っていたことの証拠となる。

3世紀後半または4世紀前半のギリシャ・ローマの司教であり聖人であるオリンポスのメトディウスは、仮庵の祭りが命じられたものであり、キリスト教徒にとって教訓となるものであると教えた。

神は六日間で天と地を造り、全世界を完成させ、七日目にすべての創造の業を終えて休まれ、七日目を祝福し、聖別されたので、第七の月に、地の産物が集められたとき、象徴的に主のために祭りを守るように命じられています。…私たちの仮庵の祭りを主に祝うように命じられています。…イスラエル人がエジプトの境界を出て、まず仮庵に来て、そこから再び出発して約束の地に入ったように、私たちもそうするのです。わたしもまた、この世のエジプトから旅立ち、まず復活祭、すなわち真の仮庵祭にたどり着き、そこで徳の実りで飾られた幕屋を建て、復活祭の初日、すなわち審判の日に、キリストと共に千年安息日、すなわち

第七日、真の安息日を祝うのである。（メトディウス『十人の乙女の宴』第9講話）

カトリックの司祭であり学者でもあるヒエロニムスは、ナザレ派キリスト教徒が仮庵祭を守り、それがイエス・キリストの千年王国を指し示すものだと信じていたと述べている（『パトロロギア・ラティーナ』第25巻 MPL025 Ab Columna ad Culumnam 1415 - 1542A）。4世紀後半にナザレ派キリスト教徒が仮庵祭を守っていたことは、カトリックと東方正教会の聖人であるサラミスのエピファニウスによっても確認されている。

キリスト教徒とイスラエル人との違い

キリスト教徒は主に新約聖書の記述に基づいて仮庵祭を祝いますが、その祝い方はイスラエル人とは少し異なります。

記録によると、仮庵の祭りは中世ヨーロッパで行われていたように（アンバサダー・カレッジ通信講座、レッスン51。「そして女は荒野に逃げた。そこには彼女の場所があった…」 Revelation12: 6、1968年）、特に1500年代のトランシルヴァニアでは、棕櫚の枝のない場所で行われていた（Liechty、pp.61-62）。1600年代と1700年代にはアメリカ大陸でも行われていたことを示唆する証拠もある。20世紀には、旧ラジオ・チャーチ・オブ・ゴッドとワールドワイド・チャーチ・オブ・ゴッドによって世界中で行われていた。

私たちContinuing Church of Godは世界各地でこの祭りを守り続けており、仮庵の祭りは神の王国におけるイエス・キリストの千年王国を指し示すものであると教えています。

仮庵祭は、現代の多くのキリスト教徒によって、イスラエル人が通常使用していた棕櫚の枝の小屋だけでなく、テントやモーター／ホテルの部屋を「仮庵」、つまり仮住まいとして用いて祝われています。新約聖書は、キリスト教徒には別の仮庵があることを示しており（Hebrews8:2、9:11-15参照）、これは棕櫚の枝の小屋を自ら建てる必要がないことと一致しています。聖書は、イスラエルの民が荒野で40年間過ごした間、主にテント（Exodus33:8参照）に住み（Deuteronomy4:45-49参照）、神はそれらを「仮庵」とみなしたことを示しています（Leviticus23:43参照）。テントやモーターの部屋に住むことは、今日では同様の仮住まい／仮庵と言えるでしょう。

聖書は、クリスチャンは動物のいけにえ（Hebrews 9:9）を捧げる必要がないことを示しています。これは、イスラエルの民が仮庵の祭りの際に捧げていた燔祭（Leviticus 23:36-37）のようなものです。その代わりに、私たちは自分自身を生きたいけにえとして捧げるべきであり、それが私たちのなすべき奉仕です（Romans 12:1）。通常、これには仮庵の祭りの期間中に定期的に教会礼拝に出席することが含まれます。

仮庵の祭りでは毎日礼拝に出席する必要があるのに、種なしパンの祭りではそうする必要がないのはなぜかと疑問に思う人もいるかもしれません。聖書の基本的な理由は、「あなたは七日間、仮庵の祭りを守らなければならない。七日間、主が選ぶ場所で、あなたの神、主のために聖なる祭りを守らなければならない」（Deuteronomy16:13,15）と命じられているのに対し、種なしパンの祭りに関してはそうは書かれていないからです。種なしパンの祭りの命令は、七日間祭りを守るのではなく、七日間種なしパンを

食べるようにとLeviticus23:6とDeuteronomy16:3に記されています（私たちは種なしパンを毎日食べることで、種なしパンの七日間を「犠牲」として捧げます）。聖書には仮庵の祭りの期間中は仮の住居に滞在するようにとも書かれている（Leviticus23:42）が、他の聖なる日についてはそのようなことは述べられていない。

サタンは千年王国に縛られることになるので（Revelation20:1-2）、その頃には欺瞞は少なくなるでしょう。仮庵の祭りの期間中に旅に出て毎日集まることは、世界が今とは全く異なる時代を迎える様子を想像するのに役立ちます。

「御国が来ますように！」（Matthew 6:10）

聖書は、千年王国時代に仮庵祭が守られ、最終的に神が私たちと共に「幕屋を張る」と教えています。

聖書の預言によれば、仮庵の祭りは千年王国時代にも行われるとされている。

16そして、エルサレムを攻めてきたすべての国々のうち、生き残った者は皆、毎年エルサレムに上って行き、王である万軍の主を礼拝し、仮庵の祭りを守るであろう。17地上のどの家族も、エルサレムに上って王、万軍の主を礼拝しない者には、雨が降らないであろう。18エジプトの民が上って来なければ、彼らは雨に降らず、仮庵祭を守るために上って来ない諸国民に主が下す災いを受けるであろう。19これはエジプトへの罰であり、仮庵の祭りを守るために上って来ないすべての国々への罰である（Zechariah14:16-19）。

聖書は、将来、神がすべての人に仮庵の祭りを守ることを期待すると教えています。カトリックの解説者でさえ、神の計画には仮庵の祭りが含まれていることを認めています。Zechariah 14の箇

所に関するカトリックの解説書には、次のように書かれています。

その間、かつて教会を迫害していた人々は改宗し、深い信仰心をもって祝祭を祝い、神を称える宗教儀式を行い、大きな報いを受けるであろう。（西暦1610年版ドゥエ旧約聖書、第2巻、824ページ）

神の王国はこの世のすべての王国に取って代わる（Revelation11:15）が、この祭りは、キリスト教の巡礼者たち（1 Peter2:1-12）を普段の生活から引き離すことによって（Revelation18:4、1 John2:18-19参照）、このことを象徴的に表している。

仮庵の祭りを守ることは、この時代に未来の千年王国で何が起こるのかを垣間見せてくれます。聖書はまた、後に「神の幕屋」が地上にあり、「神は私たちと共に住まわれる」ことを示しています（Revelation21:3）。

今、仮庵の祭りを守ることは、神の王国で将来起こる出来事の予兆である。

8. 最後の偉大な日：人類のための神の驚くべき救済計画

この8日目、つまり仮庵の祭りの7日間の直後に続く日は、救済計画の完成を象徴している。

救いを象徴する「命の書」が開かれる（Revelation20:12）。これは新しい天と新しい地が到来する直前のことである（Revelation21:1）。ユダヤ人はこの祭りをシェミニ・アツェレトと呼びます。これは「集会の8日目」を意味します（仮庵の祭りの前の7日間も集会の日であったことを示唆しています）。

聖書から、8日目についてさらに詳しく見ていきましょう。

34…「この第七の月の十五日は、主のための七日間の仮庵の祭りである。」…36八日目には聖なる集会を開かなければならない。……それは聖なる集会であり、その日にはいかなる通常の仕事もしてはならない。（Leviticus23:34,36）

この日は、神の教会の関係者の間では、最後の素晴らしい日と呼ばれています。なぜなら、新約聖書にはそれについて次のように書かれているからです。

³⁷祭りの最終日、その盛大な日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのところに来て飲みなさい。³⁸「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その心から生ける水の川が流れ出るであらう。」（John ^{7:37-38}）

こうしてイエスは、千年王国を象徴する祭りの直後の日を守り、その日に教えを説いた。

ミレニアム以降、何が起こるのか？

復活 (Revelation 20:5)。

死者は神の前に立つ。しかし、今日の真のクリスチャンはこれに含まれない。彼らはイエスが再臨する時に復活するからである。この復活にあずかるのは、神の真の計画を知らずに死んだ者たちに違いない。

それは過去の時代の中で起きたことである。これはイエスが繰り返し言及した審判の日である。

⁷そして、行きながら、「天国は近づいた」と宣べ伝えなさい。¹⁴もしあなたがたを受け入れず、あなたがたの言葉を聞かない者がいたら、その家や町を去るときは、足の塵を払い落としなさい。¹⁵はっきり言うておくが、裁きの日には、ソドムとゴモラの地の方が、その町よりも耐えやすいだろう。(Matthew ^{10:7, 14-15})

²³そして、天にまで高められたカペナウムよ、あなたはハデスに落とされるだろう。もしあなたの中で行われた力強い業がソドムで行われていたなら、ソドムは今日まで残っていたであろう。²⁴しかし、わたしはあなたがたに言います。裁きの日には、ソドムの地の方があなたがたよりも耐えやすいでしょう。(Matthew ^{11:23-24})

注目すべきは、神がソドムとゴモラで滅ぼした者たち (Genesis 19:24) は、キリストとその王国のメッセージを故意に拒絶した者たちよりも、審判の日にははるかに耐えやすいということである。

。

イエスはまた、「赦されない罪」を除いて「すべての罪は赦される」（Mark3:28）と教えました（Mark3:29）。最後の偉大な日の成就によって、これまで救いの機会に恵まれなかったすべての人々が真にその機会を得ることになり、ほぼすべての人々がその申し出を受け入れるでしょう。

これまで生きてきたほぼすべての人類が救われるでしょう！

2世紀、スミルナのポリュカルポスは仮庵祭と最後の大いなる日について教えたと言われている（ポリュカルポスの生涯、第19章）。

聖書の真理は、神の愛ゆえに、イエスはすべての人々のために死ぬために来られたということです。

16神は、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは、御子を信じる者が一人も滅びることなく、永遠の命を得るためである。17神は御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。（John 3:16-17）

では、愛に満ちた神は、ごく少数の人々のために、あるいは世界のために、御子を死なせるために遣わされたのでしょうか？

John 3:16をよく引用するプロテスタントは、世界は救われうるが、これまで生きてきた人々の大多数は永遠に苦しみ続けると教える傾向があります。彼らはまた、イエスがすべての人々のために死ぬために来られたこと（John 3:17）を見落としているようです。全知全能で愛に満ちた神が、このような救済計画を立てるのでしょうか？聖書は、誰もが今すぐ救われるという考えを支持してい

るのでしょうか？もしそうでないなら、それは公平なことでしょうか？

神は全知全能であり、愛である（1 John 4:8,16）のだから、神はこれまで生きてきたほとんどの人を永遠の苦しみへと予定していたのだろうか？

いいえ。

確かに神は、実際にうまくいく計画を立てるだけの知恵をお持ちだ。

Romans 9:14-15には次のように記されている。

¹⁴それでは、何と言えばよいのでしょうか。神に不正があるのでしょうか。決してありません。¹⁵主はモーセにこう言われた。「わたしは、憐れみたいと思う者に憐れみをかけ、慈しみみたいと思う者に慈しみをかける。」

旧約聖書において、神がイスラエルの一部を選び、他の少数の人々を選んだことは周知の事実です。残り的人々が永遠の苦しみ定められているとしたら、それは一体どういう愛なのでしょう？

神は「すべての人が救われ、真理を知るようになることを望んでおられる」（1 Timothy 2:4）。この時代にすべての人が召されなかったのは、ほとんどの人が真理に応答して最後まで耐え忍び、救われることはないだろうと神が知っておられたからである（Mark 13:13、Luke 8:5-15参照）。しかし、だからといって、今召されていない人々が皆、滅び去ったというわけではない。

聖書は、この時代に多くの人々が意図的に盲目にされたと教えています（John12:37-40、Isaiah44:18）。この時代に盲目にされた人々にもまだ機会があります（John9:41、Isaiah42:16-18参照）。また、次の点にも注目してください。

14私は再びこの民の間で素晴らしい働きをするだろう…24霊において誤りを犯した者たちも悟りを得るであろう。不平を言っていた者たちも教えを学ぶであろう。（Isaiah29:14,24）

神にはえこひいきはありません（Romans2:11）。「地の果てまでもが、わたしたちの神の救いを見るであろう」（Isaiah52:10）ので、すべての人に機会が与えられるでしょう。

この最初の復活に含まれない人々、すなわち「残りの死者」（Revelation20:5）は、千年王国が終わった後に復活します。これは肉体的な復活であり、希望が断たれたと感じている人々も含まれるでしょう（Ezekiel37:1-14）。

彼らは罪人として裁かれるだろうが（Revelation20:12、Romans3:23、1 Peter4:17参照）、「憐れみは裁きに勝る」（James2:13）。神はすべての人に懇願し（Jeremiah25:31、Isaiah3:13）、多くの人がそれに応じるだろう（Isaiah65:24）。すべての人が神の申し出を受け入れるわけではなく、これは二度目のチャンスではない（本当にチャンスがあったにもかかわらず、神の聖霊を完全に拒絶した人は、Mark3:29にあるように、赦される機会を得られない）が、多くの人が悔い改めるだろう。最後の大いなる日は、このことを示すのに役立つ。

以下の点も考慮してください。

¹⁹主よ、わが力、わが砦、苦難の日のわが避難所よ。異邦人は地の果てからあなたのもとに来て言うでしょう。「確かに、私たちの先祖は偽り、無益なもの、役に立たないものを受け継いでしまったのです。」²⁰人は、神ではないものを、自らのために神々として作り出すだろうか？²¹「それゆえ、見よ、わたしは今度こそ彼らにわたしの手とわたしの力を知らせよう。そして彼らはわたしの名が主であることを知るであろう。」（Jeremiah 16:19-21）

17そして残りの部分で神像、すなわち神の彫像を造り、その前にひれ伏して拝み、祈りを捧げて言う。「私をお救いください。あなたは私の神です！」18彼らは知らず、理解もしない。主は彼らの目を閉じさせ、彼らが見ることができないようにし、彼らの心を閉ざし、彼らが理解できないようにしたからである。22わたしは厚い雲のように、あなたの背きを消し去り、雲のように、あなたの罪を消し去った。わたしのもとに立ち返りなさい。わたしはあなたを贖ったのだから。（Isaiah 44:17,18,22）

偶像崇拜者を含む偽りの伝統を受け入れた人々でさえ（Isaiah 44:17-18）、初めて真の救いの機会を得るでしょう（Isaiah 44:22）。アフリカ、ヨーロッパ、アジア、アメリカ大陸、そして島々の何十億もの人々は、時代を超えてイエスと真の御国の福音について聞いたことはありませんでした。しかし、神はそれを前もって知っておられ、計画をお持ちでした（Romans 11:2）。

私たち Continuing Church of God は、「私たちの神は救いの神である」（Psalm 68:20）ということに同意し、神はごく一部の人々だけでなく、より多くの人々に実際に効果のある救いの計画を持っていると教えています。

天の下で人間が救われる唯一の名はイエス・キリストです（Acts 4:12、Isaiah43:11参照）。人類のほとんどはイエスと神の国の福音についての真実を聞いたことがないので（詳細は無料の小冊子『The Gospel of the Kingdom of God』 www.ccog.org をご覧ください）、また「すべての肉なる者は神の救いを見るであろう」（Luke 3:6）とあるように、すべての人がこの世か来世で救いを得る機会があるでしょう（Matthew 12:31-32、Luke 13:29-30 を参照）。

来るべき未来の時代は、第二の復活の後に訪れます（当時の真のクリスチャンは、Revelation20:5-6にあるように、第一の復活で復活します）。そして、白い玉座の裁きの時も含まれます（Revelation20:11-12）。イザヤ（Isaiah65:20）や、ローマ・カトリック教会と正教会の聖人イレナイオス（Adversus haereses, Book V, Chapter 34, Verses 2-3,4）も、これから訪れるこの時代が約100年間続くことを示唆していた。

この考えは、異端審問官の司教ベルナルド・ギドニスが報告しているように、ローマ教会によって迫害された人々によって中世においても依然として保持されていた（BERNARD GUI: INQUISITOR'S MANUAL, Chapter 5）。

この教義は20世紀にラジオ/ワールドワイド・チャーチ・オブ・ゴッドによって教えられ、それは今もContinuing Church of Godによって教えられている。

神の救済計画

聖書の聖なる日を守ることは、真のキリスト教徒に神の真の救済計画を思い出させる。Continuing Church of Godは、このことに

関する神の計画が、神の祭りの遵守によってどのように示されているかを理解しています（Leviticus23:37）。

神は、異教の慣習を用いてご自身を崇拝することを望んでいないと明確に教えています。

29 あなたがたの神、主が、あなたがたが追い払おうとしている諸国民を、あなたがたの前から滅ぼし、あなたがたが彼らを追い払って、その地に住むようになったとき、30 彼らがあなたがたの前から滅ぼされた後、あなたがたが彼らに倣って罫にかからないように、また、彼らの神々について尋ねて、「これらの国々はどのようにして神々に仕えたのか。私も同じようにしよう」と言わないように、注意しなさい。31 あなたがたは、そのようにして、あなたがたの神、主を拝んではならない。彼らは、主が憎むあらゆる忌まわしいことを、自分たちの神々に対して行ってきたからである。彼らは、自分たちの神々に、息子や娘さえも火で焼いて捧げている。32 私があなたがたに命じることはすべて、注意深く守りなさい。それに付け加えたり、そこから取り除いたりしてはならない。（Deuteronomy 12:29-32）

異教の礼拝行為と聖書の礼拝行為を混同する者は、神の救済計画を曖昧にし、概してそれを理解していない。

新約聖書は、使徒パウロが民の律法と慣習を守りながら、聖書の聖なる日（例えば、Acts18:21、20:6,16、27:9、1 Corinthians5:7-8、16:8）を守っていたことを示している。

パウロは、異教の慣習を聖書の儀式に取り入れることを明確に非難した（1 Corinthians 10:20-23）。パウロ自身も晩年、ユダヤ人が守るべきすべての慣習を守っていたと述べており（Acts 28:17-19、参照 Acts 21:18-24）、それにはLeviticus 23に列挙されているすべての聖なる日が含まれていたはずだ。

概して、ギリシャ・ローマ系の教会は、使徒パウロがキリストに倣ったようにパウロに倣うようにという勧告（1 Corinthians 11:1）にも、使徒ヨハネがイエスと共に歩んだように歩み続けるようにという勧告（1 John 2:6、18-19）にも従っていません。なぜなら、彼らは聖書の聖なる日をすべて守っていないからです。また、これらの教会は通常、異教の慣習を礼拝暦に取り入れています。使徒たちはこれに反対しました（1 Corinthians 10:20-23、2 Corinthians 6:14-18、ユダの手紙 3-4、12、1 John 2:6）。

神の聖なる日を守らず、聖書に基づかない代替行事を行うことで、多く的人是は、罪を真に生活から排除する必要があること、神は今、一部の人だけを召しておられること、すべての人がこの世か来世で救いの機会を与えられること、そしてかつて生きたほぼすべての人が後の収穫で救われることを理解していません。

神の聖なる祝日は、ほとんどの人が理解していない神の救済計画の一部を示しています。それは素晴らしく、愛に満ちた計画です。

9. 誤訳と安息日

イエスを信じると公言する人々の多くが、聖書の聖なる日を守らないのはなぜでしょうか？反ユダヤ主義的な感情、妥協、無知、そして「伝統」についての誤った考えに加え、誤訳も、多くの人が神の祭りを守る必要性を認めようとしない理由の一つです。

聖書の祝祭日が廃止されたという「証拠」として人々が指摘する箇所には、たいてい誤訳や誤解された箇所がいくつか存在する。

Colossians 2:16-17

おそらく、安息日や聖書の聖日が廃止されたことの「証拠」として最もよく引用される聖書の箇所は、Colossians 2:16-17でしょう。そこで、この箇所のわずかな誤訳を検証してみましょう。

¹⁶だから、食物や飲み物、あるいは祝祭日、新月、安息日に関して、だれにもあなた方を裁かせてはならない。17これらは来るべきものの影であるが、本体はキリストのものである（Colossians 2:16-17、KJV）。

上記の翻訳は近いですが、「is」という単語が追加されています（そのため、KJVの翻訳者は"is"を斜体にしています）。それは元のギリシャ語にはありません。

文字通りの翻訳では、そこにはないので省略します。ストロング聖書語彙索引/17節の数字と関連語：

3739. 2076 4639... 3588... 3195....3588 1161 4983 9999 3588 554
7

9999は、聖書本文中にその単語が存在しないことを意味することに注意してください。つまり、「である」という単語はこの聖句には含まれていません。

同じ3つのストロング番号（#4983、3588、5547）が新約聖書で他に4回使用されており、それらの箇所ではKJVは「キリストの体」と訳しています（Romans7:4、1 Corinthians10:16、1 Corinthians12:27、Ephesians4:12）——NKJVも同様です——ですから、KJVもそう訳すべきでした。

したがって、もし翻訳者たちが単に一貫性を保っていたならば、Colossians 2:16-17を次のように翻訳したであろう（括弧またはコンマを含めて）。

¹⁶だから、飲食に関して、あるいは祭りや新月の遵守、安息日に関して、だれにもあなた方を裁かせてはならない。

¹⁷（それらは来るべきものの影であり、キリストの体である。）

言い換えれば、「キリストの体」（教会、Colossians1:18）の外にいる人々に聖なる日について判断させてはならない。真の教会だけが判断すべきである。Colossians2:16-17は、安息日や聖なる日が廃止されたと言っているわけではない。

初期の正教会の司教であるミラノのアンブロシウスでさえ、Colossians 2:17が「キリストの体」を指していることを認識しており、その節について次のように解説している。

それでは、キリストの体を探し求めよう。キリストの体があるところに真理がある。（ミラノのアンブロシウス『復活の信仰について』第二巻、第107節）

現代のギリシャ語翻訳者が、この表現の真の意味をしばしば無視してきたのは残念なことである。

誤訳に基づいて聖なる日が廃止されたと主張するのは、不適切な聖書解釈である。

Galatians 4:8-10

聖なる日を守ることに對するもう一つのよくある反論は、Galatians 4:8-10です。一部のプロテスタントは、この箇所を根拠に、聖書に定められた日付は一切守るべきではないと主張する傾向があります。では、これらの聖句が実際に何を教えているのかを見ていきましょう。

⁸しかし、あなたがたは神を知らなかったとき、本来神ではないものに仕えていたのです。⁹しかし今、あなたがたは神を知り、いや、むしろ神に知られているのに、どうしてまた弱くて貧弱な要素に立ち返り、再びそれに束縛されようとするのですか。10 あなたがたは日や月や季節や年を守っています。

ここでの反聖日論には、いくつかの問題点がある。

一つは、ガラテヤ人は異邦人であり（後の節ではユダヤ人も言及されているようだが）、改宗前は聖書の聖なる日を守っていなかったということである。

さらに、聖書が聖書の教えを「取るに足らないもの」と呼ぶはずがありません。パウロは明らかに異教の儀式に対して警告を発しており、ガラテヤの人々は「本来神ではないものに仕えていた」のです。

もう一つは、カトリック教徒、プロテスタント教徒、東方正教徒は、様々な日や年（日曜日、イースター、クリスマス、新年など）を祝っていることを考慮に入れ、宗教的な祝日を祝う必要がないと感じる場合は、何も祝うべきではないということである。

Galatians 4:8-10は、聖書に定められた聖なる日を廃止しようとしているのではなく、聖書に基づかない慣習に固執することへの警告である。

7日目の安息日はどうでしょうか？

7日目の安息日は、Leviticus 23に列挙されている神の祭りの最初のものであります。これは年1回ではなく週ごとの聖なる日ですが、いくつか簡単な説明をしておく必要があるでしょう。

聖書における安息日である週の7日目は、現在では土曜日と呼ばれています。一部のカレンダーでは日曜日が週の7日目とされていますが、実際には日曜日が週の最初の日です。新約聖書には、イエス（Luke4:16、21; 6:6; 13:10）だけでなく、使徒たちや信者たち（Acts13:13-15、42-44; 17:1-4; 18:4; Hebrews4:9-11）も、週の7日目の安息日を守っていたことが明確に示されています。

多くの人が、第七日の安息日は新約聖書に規定されていないため、今日守る必要はないと主張している。しかし、そのような主張をするには、聖書の誤訳に頼るしかない。原典とされるギリシャ

語、アラム語、ラテン語ウルガタ訳聖書を見れば、いずれの言語においても、キリスト教徒にとって第七日の安息日が義務付けられていることは明らかである。

カトリックやプロテスタントの聖書翻訳の中には、第七日の安息日を神に従順なキリスト教徒のために維持すべきだと記しているものもある。

⁴なぜなら、彼はどこかで第七日について次のように語っているからである。「そして神は第七日に、そのすべての業を終えて休まれた。」⁵そしてまた、先に述べた箇所で、「彼らはわたしの安息に入ることはない」とあります。⁶したがって、ある人々はそれに入るであろうが、以前に福音を受けた人々は不従順のために入らなかったのも、…⁹したがって、神の民には依然として安息日の休息が残されている。¹⁰そして、神の安息に入る者は、神がご自身の業を終えて休まれたように、自分自身の業を終えて休むのである。¹¹ですから、私たちはその安息に入るよう努めましょう。そうすれば、だれも同じように不従順な行いに陥ることはないでしょう。(Hebrews 4:4-6,⁹⁻¹¹、新アメリカ聖書)

⁴なぜなら、彼はどこかで第七日についてこう語っているからだ。「そして第七日に、神はすべての業を終えて休まれた。」⁵そして、上記の箇所では彼は再びこう言っています。「彼らは決して私の安息に入ることはないだろう。」⁶それでもなお、ある人々はその安息に入るだろう。かつて福音を宣べ伝えられた人々は、不従順のためにそこに入ることができなかったのだ。⁹こうして、神の民には安息

日の休息が残されるのである。¹⁰神の安息に入る者は誰でも、神がご自身の働きを終えて休まれたように、自分自身の働きを終えて休むのである。¹¹ですから、私たちはその安息に入るためにあらゆる努力をしましょう。そうすれば、だれも彼らの不従順の例にならって倒れることはないでしょう。（Hebrews 4:4-6,⁹⁻¹¹、新国際版聖書）

新約聖書は、クリスチャンは第七日安息日を守るべきであると明確に述べています。安息日は、霊的な成長と個人の回復を促すだけでなく、神の千年王国における安息の到来を象徴するものでもあります。

多くの人は第七日の安息日を聖なる日とは考えていませんが、聖書はそう定めています（Leviticus23:3、Exodus20:8、Isaiah58:13）。新約聖書は安息日を守らないことを戒めています（Hebrews4:4-11）、多くの人は「空虚な言葉」で言い逃れようとします（Ephesians5:26参照）。

また、誤訳によってそうではないと示唆されているにもかかわらず、2世紀のアンティオキアの司教イグナティウスは、第7日の安息日を日曜日に置き換えたわけではないことも言及しておくべきだろう（Thiel B. Ignatius and the Sabbath. The Sabbath Sentinel I, Volume 69 (3): 18-21, 2016 および Thiel B. More on Ignatius and the Sabbath. The Sabbath Sentinel, Volume 70 (2): 15-17, 2017）。ディダケーと呼ばれる古代文書もまた、安息日を置き換えなかった（Thiel B. The Didache and the Sabbath. The Sabbath Sentinel, Volume 69 (2): 10, 19-20, 2016）。

教会の歴史に関するより詳しい資料については、小冊子をご覧ください。
今日の真のキリスト教会はどこにあるのか？そして *Continuing History of the Church of God* は www.ccog.org をご覧ください。

10. 再パッケージ化された悪魔の休日

クリスマスやイースター、その他多くのキリスト教の教授たちが祝う宗教的な祝日についてはどうでしょうか？

それらは聖書に由来するものですか？ もしそうでないなら、どこから来たものですか？ 聖書によれば、それらを保管することは重要ですか？

世界の教会が支持する祝日は数多く存在するが、すべての教会がすべての祝日を支持しているわけではない。歴史を通じて、教会によっては、同じ祝日を支持することもあれば、非難することもあり得た。

本書では各祝祭日の詳細や起源についてすべて説明することはできませんが、実際には、多くの祝祭日は、もともとは異教の神々を称えるために作られたものであり、その後、様々な教会がそれらを採用したり、名前を変えたりして、悪魔的なものへと変貌を遂げたものです。

ギリシャ・ローマの神学者たちがこれらの祝祭日を異教的でキリスト教徒には不適切だと非難していたことを知れば、多くの人が驚くだろう。もっとも、21世紀には様々なギリシャ・ローマ教会がこれらの祝祭日を推進しているのだが。

元旦は、ヤヌス（時間の神）とストレヌア（浄化と幸福の女神）を祀る日だった。

聖書では春に1年が始まるとされている（Exodus12:2）が、一般的に元旦と呼ばれる日は現代の暦では1月1日に祝われる。2世紀

後半、ギリシャ・ローマの神学者テルトゥリアヌスは、キリストを信仰すると公言しながらその祝祭の一形態を祝っていた人々を非難した。しかし、それは多くの人々が祝うことを止めることはなかった。

カトリック百科事典報告:

キリスト教の著述家や公会議は、年初めに祝われる祭りにまつわる異教徒の乱痴気騒ぎや行き過ぎた行為を非難した。テルトゥリアヌスは、新年を司る女神ストレニア（オウィディウス『祭暦』185-90行参照）からの慣習的な贈り物（ストレナエ、フランス語：étrennes）を単なる友好的な交流の印とみなしたキリスト教徒を非難している（『偶像について』第14章）。（ティアニー・J『新年』『カトリック百科事典』第11巻、1911年）

西暦487年頃、ギリシャ・ローマ人は1月1日に「割礼の祝祭」を採用したようだ。しかし、これによってすべての異教徒の活動が止まったわけではなかった。

カトリック百科事典注:

現代においても、新年の到来を告げる世俗的な行事は、割礼の宗教的儀式を妨げ、本来聖なる日であるべきものを単なる祝日に変えてしまう傾向がある。聖アウグスティヌスは、異教徒とキリスト教徒の新年の祝い方の違いを指摘している。異教徒の宴会や過ちは、キリスト教徒の断食と祈りによって償われるべきであった（P. L., XXXVIII, 1024 sq q.; Serm. cxcvii, cxcviii）。（同上）

したがって、そこには次のようにも書かれています。

…6世紀末頃、オセール公会議（第1条）はキリスト教徒を禁じた。悪魔的な策略を觀察する。

その表現悪魔的な策略を觀察するラテン語から英語に直訳すると「悪魔の新しい時代を遵守する」という意味になる。新年の抱負は、かつて異教の女神に捧げられた祈りや慣習と関連している可能性が高い。

1月1日これは聖書に由来する祝日ではなく、ローマ教会でさえ、その一部の特徴を悪魔的なものとして禁じている。

バレンタインデーは、ファウナス／パン（家畜と豊穡の神）を称える日です。

聖書にはバレンタインデーのような祝日はないが、多くの人がそれを祝う。

カトリック系の情報源がそれについて書いた内容は以下のとおりです。

バレンタインデーの起源は、2月15日に祝われていた古代ローマのルペルカリア祭にある。ローマ人は800年間、この日をルペルクス神に捧げていた。ルペルカリア祭では、若い男性がくじ引きで若い女性の名前を引き当て、その女性を1年間性的な伴侶として囲うのが習わしだった…。

カトリック教会はもはや公式には聖バレンタインを祝っていないが、この祝日はローマとカトリックの両方に起源を

持つ。（聖バレンタインデーの起源。<http://www.americancatholic.org>）

異教の起源を持ち、性的に奔放な日を祝うことは、キリスト教徒が決して行うべき日ではありません。このような行為は新約聖書でも警告されています（1 Corinthians 6:18、ユダの手紙 4）。

バレンタインデーに関するイスラム教徒のコメントをいくつかご紹介します。

バレンタインデーを祝うことは許されない。なぜなら、まず第一に、それは新しく作られた祝日だからである。キリスト教徒はバレンタインデーの異教の起源を知っていた。
キリスト教徒がバレンタインデーを取り入れた方法は教訓となるはずだイスラム教徒にとって…**異教の不道德な慣習に関連するものはすべて避けるべきである**。家族、友人、夫婦間の愛は、そのような起源を持つ日に祝う必要はありません。（バレンタインデーの祝賀に関する裁定。<http://www.contactpakistan.com>）

イスラム教徒はバレンタインデーをキリスト教（明らかに偽りの妥協的なキリスト教）や罪と結びつけていることに注目してください。

言い換えれば、バレンタインデーは（「キリスト教」という言葉を通して）異邦人の間でキリストの名を冒涇する原因となる（Romans2:24、Isaiah52:5）。異教の祝祭日を守ることによって「あなた方のせいで神の名が冒涇される」ことがないようにしなさい（Romans2:24）。

真のキリスト教徒は、悪魔的な祝祭日を装いを変えて守ることはない（1 Corinthians 10:21参照）。

マルディグラ：悪魔のカーニバル

マルディグラやバレンタインデー（以下、ルペルカリアと呼ばれる）のようなカーニバルは、異教信仰に由来する。

春の祭典として記録されている最初期の例の一つは、エジプトのオシリス祭です。これは、ナイル川の毎年の氾濫によってもたらされる生命の再生を祝うものでした。紀元前6世紀のアテネでは、ディオニュソス神を称える毎年恒例の祭典が、山車が使用された最初の記録例となりました。ローマ帝国時代には、カーニバルはかつてないほどの社会不安と放蕩の極みに達しました。ローマの主要なカーニバルは、バッカナリア、サトゥルナリア、ルペルカリアでした。ヨーロッパでは、春の豊穡を祝う伝統はキリスト教時代まで長く続きました…カーニバルはヨーロッパの異教の迷信や民俗に深く根ざしているため、ローマ・カトリック教会はそれを根絶することができず、最終的にはその多くを教会の活動の一部として受け入れました。（カーニバル。『コロンビア百科事典』第6版、2015年）

バッカナリア祭は、ディオニュソスとも呼ばれるバッカス神に捧げられた祭りでした。バッカス神は、ギリシャ神話において、ブドウの収穫、ワイン造り、ワイン、儀式的な狂乱、豊穡、演劇、そして宗教的恍惚の神でした。バッカナリア祭では、性的な淫蕩も行われていました。バッカス神への崇拝は、3世紀のギリシャ・ローマの指導者コンモディアヌスによって非難されました（コ

ンモディアヌス『キリスト教規律について』アンテ・ニカイア教父著作集第4巻）。

アルコール、特にワインはギリシャ文化において重要な役割を果たしており、ディオニュソスは騒々しいライフスタイルの重要な理由の一つであった（Gately I. Drink. Gotham Books, 2008, p. 11）。マルディグラやカーニバルはこれに関連しているようだ。

2世紀後半、ローマ・カトリックの司教であり東方正教会の聖人でもあるイレナイオスは、異端者ヴァレンティヌスの信奉者たちが肉を食べる異教の祭りに参加したことを非難し、次のように記した。

それゆえ、彼らの中の「最も完全な」者たちが、聖書が「そのようなことを行う者は神の国を受け継ぐことはない」と断言しているあらゆる種類の禁じられた行いに、恐れることなく身を委ねるという事態も起こる。例えば、彼らは偶像に捧げられた供え物の肉を食べることに何の躊躇もなく、そうすることで汚れることはないと考えている。また、偶像を崇拜する異教の祭りのたびに、……。彼らの中には、肉欲に極めて貪欲に身を任せ、肉的なものは肉的な性質に許され、霊的なものは霊的な性質に与えられるべきだと主張する者もいる。さらに、彼らの中には、上記の教義を教えた女性たちを汚す習慣を持つ者もいる。これは、彼らの一部に惑わされた女性たちが、神の教会に戻ってきて、他の誤りとともにこのことを告白した際にしばしば明らかになっている。（イレナイオス著『異端反駁』第1巻第6章第3節）

後に、正教会のカトリック弁証家アルノビウス（330年没）は、異教徒が行っていた断食のやり方について警告を発した。

エレクトウスの賢明なる息子たちよ、あなた方はどう言うのか？ ミネルヴァの市民たちよ、どう言うのか？ あなた方が、維持することがこれほど危険なものをどのような言葉で擁護するのか、あるいは、これほど致命的な傷を負った人物や大義を安全に保つためのどのような技量を持っているのか、心は知りたがっている。これは偽りの不信感でもなければ、あなた方を嘘の告発で攻撃しているわけでもない。あなた方のエレウシニアの悪名は、その卑劣な起源と古代文献の記録、そして究極的には、聖なるものを受け取る際に質問されたときにあなた方が用いるまさにその兆候によって明らかにされているのだ。「私は断食し、薬を飲みました。神秘の石箱から取り出し、籐の籠に入れました。再び受け取り、小さな箱に移しました。」（アルノビウス『異教徒駁論』第5巻第26章）

アルノビウスは、マルディグラの宴会の後に断食を行うことについても警告していたようだ。

明日はジュピターの祝祭日だ。ジュピターはきっと宴会を開き、盛大な宴で満腹になり、断食によって長い間食べ物への強い欲求を満たし、そしていつもの間隔が過ぎると空腹になるのだろう。（アルノビウス『異教徒駁論』第7巻第32章）

そのため、初期の著述家たちは、異教の偶像崇拜との関連性から、カーニバル／マルディグラによく似た名前の祝祭を非難した。

聖書は次のように教えている。

13昼間のように、正しく歩もう。宴楽や泥酔、淫らな行いや情欲、争いや嫉妬にふけてはならない。14しかし、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすために、肉のために備えをしてはならない。(Romans13:13-14)

聖書は喜びを非難してはいないが、マルディグラやそれに類する行事は聖書に反する。ポリビアではこれを「悪魔のカーニバル」と呼び、公然とサタンを神として崇拝しているのだ！

悪魔のカーニバル（ラ・ディアブラダ）毎年春になると、オルロはカーニバルモードになります...ハイライトの1つは悪魔の踊り手たちで、その伝統は独特な悪魔崇拝に由来しています。オルロは鉱山の町で、地元の人々は地下で多くの時間を過ごすため、冥界の神を崇拝することにしました。キリスト教の伝統では、それは悪魔でなければならぬとされており、オルロの信者たちはサタン、またはスパイを自分たちの神として受け入れました/（フロムズ。http://events.frommers.com/sisp/index.htm?fx=event&event_id=5769）

カーニバル／マルディグラは悪魔的な祝祭であり、決してキリスト教の祝祭ではありません。イエスも、初期の忠実な弟子たちも、この祝祭を祝ったことはありません。

四旬節：種なしパンの祭りとペンテコステの歪んだ形なのか？

四旬節はどうでしょうか？

「レント」という言葉は春を意味するが、現在では主にマルディグラ直後の冬に守られている。

ワールドブック百科事典は次のように述べている：

四旬節は春に守られる宗教的な期間です。灰の水曜日（イースターの40日前、日曜日を除く）に始まり、イースターの日曜日に終わります（ラム・B.『四旬節』ワールドブック百科事典、第50版、1966年）。

灰の水曜日はどうでしょうか？

いえ、それは本来のキリスト教の祝日でも、聖書に記された祝日でもありません。

カトリック百科事典報告：

灰の水曜日 名前**灰の水曜日**（灰の日）という表現は、ローマ・ミサ典書に見られるもので、現存する最古のグレゴリオ聖礼典書の写本にも見られ、おそらく少なくとも8世紀に遡る。

この日、古来の慣習に従い、すべての信者はミサの開始前に祭壇に近づくよう勧められ、そこで司祭は事前に祝福された灰に親指を浸し、額に印をつける（サーストン・H.「灰の水曜日」『カトリック百科事典』1907年）。

こうして、ローマ教会は8世紀にそれを正式に採用した。

また、額に灰で十字架を描くという習慣は、太陽神崇拝やその他の異教信仰に由来するものであることにも留意すべきである。

ミトラス教の入信者は、以後額に太陽十字を刻むことになった。キリスト教の灰の水曜日に額に灰で十字架を描く儀式との類似性は驚くべきものである。このことは、初期キリスト教徒がミトラス教から影響を受けた例だと示唆する者もいれば、両方の教団が同じ原型に基づいていたと考える者もいる。（Nabarz P.『ミトラスの秘儀：キリスト教世界を形作った異教の信仰』Inner Traditions/Bear & Company、2005年、36ページ）

灰の水曜日 このキリスト教の祭りはローマの異教から来ており、ローマはそれをヴェーダ時代のインドから取り入れた。灰は火の神アグニの種と考えられており、すべての罪を赦す力があるとされていた。3月のローマの新年の贖罪祭では、人々は粗布をまとい、灰で体を洗い、罪を償った。当時も今も、大晦日は食べたり飲んだり罪を犯したりする祭りであり、翌日にはすべての罪が洗い流されるという考えに基づいていた。3月の死にゆく神として、マルスは信者の罪を死に持ち込んだ。そのため、カーニバルはディエス・マルティス、つまりマルスの日に行われた。英語では火曜日であり、マルスはサクソン人の神ティウと関連付けられていた。フランス語では、カーニバルの日はマルディグラ、「太った火曜日」と呼ばれ、灰の水曜日の前の祝祭の日であった。（ウォーカー・B著『女性のための神話と秘密の百科事典』ハーパーコリンズ、1983年、66-67ページ）

四旬節の40日間の断食はどこから来たのか？

聖書には50日間を数える期間が記されており、これがペンテコステという名前の由来となっている。4世紀から6世紀頃、ギリシャ・ローマ人はイスラム教のラマダンに似た50日間の断食を行っていた（パインズ、32ページ）。やがて、これは1つ以上の（通常は食品の）品目を40日間断つという形に変わった。

もちろん、初期キリスト教徒は四旬節を守っていませんでした。5世紀のカトリックの聖人であるヨハネ・カッシアヌス修道院長でさえ、そのことを認識していました。

ただし、次のことを知っておく必要があります。**原始教会がその完全性を途切れることなく保っていた限り、四旬節の遵守は存在しなかった。**（カシアン・ジョン著『会議録』第21回、テオナス修道院長による第1回会議、50日間の休息について、第30章）

つまり彼は、四旬節は後から追加されたものであり、本来の信者たちはそれを守っていなかったことを認めたのだ。

使徒パウロは過越祭と種なしパンの祭りを守ることを勧めた（1 Corinthians 5:7-8）。しかし、彼は四旬節と呼ばれるものを守ることを勧めたわけではない。とはいえ、種なしパンの祭りは、多くの人がイースターと呼ぶ時期の前後に、酵母を断つ7日間の「断食」を伴うため、ローマやエジプトに関係のある人々の中には、断食期間を設けることが適切だと考えた者もいたかもしれない。ただし、断食期間の長さや断食する内容は様々であった。

ソクラテス・スコラスティコスが5世紀に次のように書いた。

イースター前の断食は、人によって異なる方法で行われていることがわかる。ローマの人々は、イースター前の3週間、土曜日と日曜日を除いて断食する。イリュリカやギリシャ全土、アレクサンドリアの人々は、6週間断食し、それを「40日間の断食」と呼ぶ。イースター前の7週目から断食を始め、3～5日間だけ断食し、それを間隔を置いて行う人々もいるが、それでもその期間を「40日間の断食」と呼ぶ。…その理由については、人によってそれぞれ異なる考えがある。断食の方法や日数についても意見の相違が見られる。生き物を一切食べない人もいれば、魚だけを食べる人もいる。魚と一緒に鳥も食べる人も多く、モーセによれば鳥も水から作られたと言う。卵やあらゆる種類の果物を断つ人もいれば、乾いたパンだけを食べる人もいる。また、これさえも食べない者もいれば、第九時まで断食した後、どんな食べ物でも分け隔てなく食べる者もいる……しかし、誰も権威として書面による命令を示すことはできない……（ソクラテス・スコラスティコス『教会史』第五巻第22章）

使徒たちは、異なる条件を伴う異なる断食を行っていたことは決してありません（1 Corinthians 1:10、11:1 参照）。四旬節の40日間の断食は、聖書に記されている、一切の食物と水を断つ40日間の断食とは異なります（Exodus 34:28、Luke 4:2）。

四旬節の起源に関して、ある学者が書いたことに注目してください。

バビロニアのイシュタルを崇拝する人々や、エジプトの偉大な瞑想の神アドニスまたはオシリスを崇拝する人々は、

40日間の四旬節を守っていた。異教徒の間では、この四旬節は、毎年恒例の（通常は春の）盛大な祭りに欠かせない準備期間であったようだ。（バッキオキ S.『聖書と歴史における神の祭り、第1部：聖書的視点』、ベリアン・スプリングス（ミシガン州）、1995年、108ページ）

40日間の断食という考え方は、エジプトのアレクサンドリアかギリシャから伝わった可能性が高く、異教の女神イシュタルと関連している。バビロニア人がギリシャとエジプトを征服した際に、この習慣が始まったのかもしれない。

初期キリスト教徒は種なしパンの祭りを守っていたため、異教の断食を様々な形でギリシャ・ローマ人が取り入れたと考えられる。

使徒パウロが異教の儀式に関わることに對して警告していることに注目してください。

¹⁴不信仰な者たちと不釣り合いなチームを組んではならない。正義と不法がどうして共存できるだろうか。光と闇に何の関係があるだろうか。¹⁵キリストはどのようにしてベリアルと合意に至ることができたのか、また、信者と非信者の間にはどのような分かち合いがあり得るのか。¹⁶神の神殿は偽りの神々と妥協することはできない。そして、私たちこそが、生ける神の神殿なのである。（² Corinthians 6:14-16、新共同訳）

²⁰いいえ、そうではありません。単に、異教徒が犠牲を捧げるとき、彼らが捧げるものは神ではない悪魔に捧げられるということです。私はあなたがたに悪霊と分かち合っ

ほしくありません。21主の杯と悪霊の杯を同時に飲むことはできない。主の食卓と悪霊の食卓の両方にあずかることはできない。22私たちは本当に主の嫉妬を招きたいのでしょうか。私たちは主よりも強いのでしょうか。（1 Corinthians 10:19-22、新共同訳）

エジプト、ローマの異教、あるいはその他の悪魔的な起源のいずれにせよ、四旬節が聖書から生まれたわけではない。また、イエスの最初の弟子たちの初期の伝統からも生まれたものではない。

中には、自分は霊的に十分強いから異教の信仰を取り入れることができると考えている者もいるが、使徒パウロによれば、それは実際には神の怒りを招く行為である。

イースター

多くの人、イースター（イシュタル）が本来は過越祭であったことを知らないが、臆病さとユダヤ人への憎悪のために日曜日に変更された（同書、101-103ページ）。

尊敬されるプロテスタントの学者J・ギーゼラーが2世紀について報告した内容に注目してください。

この祭りで最も重要だったのは、ニサンの14日の過越祭でした…彼らはユダヤ人と同じように、8日間種なしパンを食べました…彼らの間には、毎年復活祭を行うという痕跡は全くありません…小アジアのキリスト教徒は、ニサンの14日の過越祭の厳粛さをヨハネに訴えました。（ギーゼラー、ヨハン・カール・ルートヴィヒ『教会史教科書』ハーパー & ブラザーズ、1857年、166ページ）

キリスト教徒はニサンの月の14日に過越祭を祝ったが、ローマ当局の目にはユダヤ人の反乱によって距離を置こうとしたため、エルサレム、ローマ、アレクサンドリア（小アジアを除く）の多くのギリシャ系ローマ人は、過越祭を日曜日に変更することにした。当初、彼らは過越祭の形式を守り、復活祭とはしなかった。

G・スナイダーの以下の記述にも注目してください。

初期のキリスト教徒は、ユダヤ教の過越祭の月の日に、イエスの死を祝ってパスカの食事（聖餐式）を行った（1 Corinthians 5:7-8 参照）。

当初は、キリストの復活を祝う年次行事は行われていなかった。やがて、異邦人の世界では、復活祭に復活の日が加えられた。その日は日曜日であった。（スナイダー GF、『アイルランドのイエス、ローマのイエス：初期アイルランドキリスト教の形成』トリニティ・プレス・インターナショナル、2002年、183ページ）

小アジアをはじめとする各地で、日曜日への日付変更に対抗する人々がいたため、ミトラス教を信仰するコンスタンティヌス帝はニカイア公会議を招集し、ギリシャ・ローマ人の日曜日を定めることを宣言した。コンスタンティヌス帝自身も次のように宣言した。

それゆえ、忌まわしいユダヤ人の群れとは何ら共通点を持たないようにしよう。なぜなら、私たちは救い主から別の道を授かったからである。（エウセビオス『コンスタンティヌス伝』第3巻第18章）

多くのユダヤ人がそうしようとしているからといって、キリスト教徒はユダヤ人を憎んだり、神の聖なる日を守らないべきではない。

イエスはユダヤ人が忌まわしい民族であるとは決して示唆しなかった（イエス自身もユダヤ人だった）し、過越祭の日付を変更したこともない。しかし、太陽崇拝者であったコンスタンティヌス帝はそうではないと結論づけた。そして、日曜日の祝祭は現在イースターとして知られている。しかし、イースターが現在の日に祝われるようになった本当の理由は、太陽崇拝の習慣と、あまりにも「ユダヤ的」と見なされた習慣の回避にあるのだ。

イースターエッグ、イースターラビット、イースターファイアなど、イースターの習慣の多くは、ローマカトリックの資料によると異教に由来する（例：Holweck F. G. Easter. The Catholic Encyclopedia, Volume V. Robert Appleton Company. 1909）。

英国国教会の司教J・B・ライトフットは次のように書いた。

…小アジアの教会は…曜日に関係なくユダヤ教の過越祭に合わせてイースターの祭りを定めたが、…ローマ、アレクサンドリア、ガリアの教会は別の規則に従った。**ユダヤ教の面影すら避ける**（ライトフット、ジョセフ・バーバー著『聖パウロのガラテヤ人への手紙：序論、注釈、論文付き改訂版』マクミラン社刊、1881年、317、331ページ）

そしてイースターという名前は？これは日の出の女神であり「天の女王」であるイシュタルの綴りを変えたものです。

イースターまたはアスタルテは、実際には、血への渴望を抱いていた女戦士セミラミスによって創設された古代バビロニアの性的儀式を伴うカルトの崇拜と同じものである。

(Kush H. Faces of the Hamitic People. Xlibris Corporation, 2010, p. 164)

イシュタルは金星の擬人化と見なされ、太陽神シャマシュ、月神シンと共に、星界の三位一体を形成していた。(リトルトン CS.『神々、女神、そして神話』第6巻、マーシャル・キャベンディッシュ、2005年、760ページ)

聖書は「天の女王」に仕えることに対して警告している。

¹⁷ユダの諸都市やエルサレムの街路で彼らが何をしているか、あなたは見ていないのか。¹⁸子どもたちは薪を集め、父親たちは火を起し、女たちは生地をこねて天の女王のために菓子を作る。そして、彼らは他の神々に飲み物の供え物を注ぎ、わたしを怒らせようとする。(Jeremiah 7:¹⁷⁻¹⁹)

そのケーキは「ホットクロスバンズ」に似ていた(プラットC.『社会生活の心理学』ドッド&ミード、1922年、71ページ)。天の女王？

Jeremiah 7...天の女王へのケーキ(18節)。おそらくバビロニアの豊穡の女神イシュタル、すなわち金星の女神を指していると思われる。(ウィクリフ聖書注解、電子データベース。著作権 © 1962 ムーディー・プレス)

キリスト教徒は、聖書が非難する異教の女神にちなんで祝日を命名すべきではなかった。しかし、キリスト教を信仰する人々のほとんどは、そのことに何の問題も感じていないようだ。

聖木曜日と聖体

過越祭の「代替」として、聖木曜日を祝う人もいます。以下はその一部です。カトリック百科事典それについて教える：

聖木曜日（または聖なる木曜日）は、聖体拝領の制定を厳かに記念する祝祭であり、聖週間特有の行事の中で最も古いものです。ローマでは、この記念行事に様々な付随的な儀式が早くから加えられてきました…それは典礼の制定記念日を告げるものです。…

聖木曜日は、喜びに満ちた一連の儀式で埋め尽くされた。新改宗者の洗礼、懺悔者の和解、聖油の奉獻、洗足式、聖体拝領の記念式などである。（ルクレール H. 聖木曜日。

『カトリック百科事典』第10巻。ニューヨーク：ロバート・アップルトン社、1911年）

「聖体拝領の制定」とは、基本的にイエスが過越祭に関連する象徴を変えたことを指すとされている。ローマ教会は、それに儀式を追加したこと、それが毎年行われる行事であったこと、そして足洗いが行われていたことを認めている。ローマ教会は別の箇所で、信徒がかつて足洗いを行っていたことを認めている。しかし、それはもはや慣習ではない（サーストン・H.「足と手の洗浄」『カトリック百科事典』第15巻、ニューヨーク：ロバート・アップルトン社、1912年）。

現在ローマ教会で使用されている「聖体」は、初期のキリスト教徒が使用していたものとは異なっている。

カトリック百科事典教える内容:

聖体拝領に供えられるパンは一般に「ホスト」と呼ばれ、この用語は聖体祭儀のパンとぶどう酒にも用いられることがあるが、特にパンに対して用いられる。オウィディウスによれば、この言葉は「敵」を意味するhostisに由来し、「Hostibus a domitis hostia nomen habet」とある。これは、古代人が征服した敵を神々への供物として捧げたためである。しかし、パキュウィウスの記述にあるように、hostiaは「打つ」を意味するhostireに由来する可能性もある。……初期のキリスト教徒は、単に食用として用いられるパンを使用した。その形態は現代とほとんど変わらなかったようである。（ルクレール H.「ホスト」『カトリック百科事典』第7巻、ニヒル・オブスタット、1910年6月1日）

初期キリスト教徒は、異教で用いられていた「太陽」に似た丸い聖体ではなく、酵母の入っていないパンを用いた。

聖母被昇天

初期キリスト教徒は当初、イエスの母マリアを崇敬していませんでした。では、マリアの昇天という考えはどこから来たのでしょうか？

基本的には、4世紀（あるいは3世紀後半）の偽典文献に由来するが、主にそれよりも後の時代である。カトリックのエピファニウ

スはこれを調査しようと試みたが、実際にいつ最初に発展したのかは確信が持てなかった。これは明らかに異教の女神崇拝を奉じる女性たちと関係があった（エピファニウスの『パナリオン』78.11.4）。

古代ローマ人は女神ディアナのために1～3日間の祭りを開催しました。初日にはディアナが地上に降臨したとされ、3日目の8月15日には天の女王として天に昇ったことを祝いました。これはカトリック教会の聖母被昇天祭と同じ日です（Kerr E. William Faulkner's Yoknapatawpha: "a Kind of Keystone in the Universe." Fordham Univ Press, 1985, p. 61）。これを偶然や単なる一致とは考えない人もいます（Green CMC. Roman religion and the cult of Diana at Aricia, Volume 0, Issues 521-85150. Cambridge University Press, 2007, p. 62; Frazer JG. The Magic Art and the Evolution of Kings V1, Volume 1. Kessinger Publishing, 2006, pp. 14-17）。

ディアナと他の様々な女神たち、そして多くの人々がマリアをどのように見ているかには関連性がある（フィッシャー＝ハンセン、49ページ）。しかし、カトリックの聖アウグスティヌスは、ディアナを「偽りの神々」の一人として具体的に言及している（アウグスティヌス『福音書の調和』第1巻、第25章）。

ローマ教会でこの慣習が正式に採用されたのは、少なくとも部分的にはイスラム教の影響によるものと推測されている。ムハンマドの「処女」である娘ファティマもまた天に昇ったとされているからである。「聖母被昇天」は聖書に記された聖日ではない。それは異教の名残である「天の女王」（Jeremiah 7:17-19）を再構成したものである。

ハロウィーン／万聖節

聖人のような人物の生涯と死を記念するという考えは聖書に反するものではないが（Judges11:38-40参照）、聖人を崇敬し、彼らに犠牲を捧げることは使徒たちの教えに反する。

サタンはキリストにひれ伏して自分を崇拝するように求めたが（Matthew4:9）、イエスはそれを拒否した（Matthew4:10）。シモン・マグス（Acts8:9-23）は、弟子たちに自分を崇敬するように促したと伝えられている（Irenaeus. Adversus haereses, Book 1, Chapter 23, Verses 1-5）。

使徒ペテロはシモン・マグスを非難しただけでなく、異邦人が彼にひれ伏したり敬意を表したりすることを禁じた（Acts10:25-26）。使徒パウロは異邦人が彼とバルナバに犠牲を捧げることを禁じた（Acts14:11-18）。使徒たちは基本的に、自分たちは人間であり、そのようなことはすべきではないと主張した。初期のキリスト教徒はこのことを理解し、そのようなことはしなかった。しかし、時が経つにつれ、2世紀後半になると、一部の異端者が聖遺物を崇敬し始めた。

聖人だと主張される人物を崇敬することは、使徒たちの慣習ではなかったにもかかわらず、4世紀以降のギリシャ・ローマ教会において深刻な問題となり始めた。

以下の点にご注意ください。

教会関係者は、ケルトの神々、グリーンマン、二頭頭像といった馴染み深い異教のイメージを教会や大聖堂に取り入れることで、民衆に二つの精神的伝統を心の中で融合させ

、新しい宗教の受容を容易にし、古い慣習から新しい慣習への移行を円滑にするよう促した。（ペズネッカー S.『ガーゴイル：グレイ魔法学校の記録より』キャリアプレス、2006年、85ページ）

ある書籍の中で、上記の記述に先立って、西暦600年頃に教皇グレゴリウス1世が書いた以下の文章の短縮版が掲載されていた。

アウグスティヌスに、神殿そのものを破壊するのではなく、神殿の中にある偶像を破壊するように伝えなさい。聖水で清めた後、祭壇と聖人の遺物をそこに安置するように。なぜなら、もしそれらの神殿が立派に建てられているならば、改宗させるべきだからである。**悪魔崇拝から真の神に仕えるために。**…したがって、彼らは教会の献堂の日、あるいはそこに聖遺物が保存されている殉教者の祝日に、かつての神殿の周りに小屋を建て、宗教的な祝宴でその機会を祝うべきである。**彼らはもはや悪魔への供え物としてではなく、神の栄光のために動物を犠牲にして食べるだろう。**万物の創造主である神に、彼らは満腹になったことへの感謝を捧げるであろう。（グレゴリウス1世：メリトゥス修道院長への手紙。エプシトラ76、PL77：1215-1216）

グレゴリウス教皇は異教の慣習を取り入れることを提唱しましたが、聖書はこのような行為や犠牲を悪魔的なものとして非難しています（1 Corinthians 10:20-21）。さらに、聖書はイエスの犠牲の後には動物の犠牲は不要であると教えています（Hebrews 10:1-10）。上記のような行為を「聖人の日」に認めることは、これも異教の遺物であり、真に悪魔的な祝日であることを示しています。

ハロウィーンには、聖書に反する服装（1 Timothy 2:9参照）をする人が多く、時には魔女の格好をする人もいます（聖書は魔女の格好を禁じています — Exodus 22:8）。これは聖書的にふさわしい祝祭ではなく、初期キリスト教の祝祭でもありませんでした。

諸聖人の日は7世紀に制定され、後に11月1日に移された。そしてその前夜はハロウィーンとして知られるようになった（Merishman F. All Saints' Day. The Catholic Encyclopedia. Vol. 1. Nihil Obstat. March 1, 1907）。

10月31日は、古代ドルイド教徒が祝っていた日だった。

古代ガリアとブリテンの司祭団であるドルイド教徒は、ハロウィーンには幽霊、精霊、妖精、魔女、エルフが人々を害するために現れると信じていました。…これらのドルイド教徒の信仰から、現代のハロウィーンの祝祭で魔女、幽霊、猫が使われるようになりました…ハロウィーンの飾りとして葉、カボチャ、トウモロコシの茎を使う習慣はドルイド教徒に由来します。ヨーロッパの初期の人々は、ドルイド教徒の祝祭に似た祭りも行っていました…700年代に、ローマ・カトリック教会は11月1日を**万聖節**。**古代の異教の習慣とキリスト教の祝祭日が融合してハロウィーン祭が誕生した。**（ハロウィーン。ワールドブック百科事典、第9巻、シカゴ、1966年：25-26）

あるカトリック作家が書いたことを考察してみるのも興味深いかもしれない。

なぜ教皇は、異教徒の死者祭の上にカトリックの死者祭を置いたのでしょうか？それは、カトリックの祝祭が異教の

祝祭と連続性があり、その意味を継承しているからです。

（キリアン・ブライアン著「ハロウィーンは秋の祝祭として、神の御名が尊ばれることを思い起こさせる」カトリック・オンライン・インターナショナル・ニュース、2006年10月31日）

ローマ教会に関係する多くの人々が、自分たちの信仰における異教とのつながりを喜び、自慢しているのは事実です。しかし、彼らも含め、すべての人々が教義の源泉として仰ぎ見るべきは聖書です（2 Timothy 3:16参照）。そして聖書は、異教の礼拝形式を用いることを非難しています（Deuteronomy 12:29-32、Jeremiah 10:2-6、1 Corinthians 10:21、2 Corinthians 6:14-18）。

クリスマス

聖書は、イエスの誕生日を含め、誕生日を祝うことを決して認めていません。初期のローマ教会はクリスマスもその他の誕生日も祝いませんでした。誕生日を祝うことは、3世紀後半になってもまだ非難されていました。アルノビウスによる（『異教徒駁論』第1巻第64章）。

さらに、テルトゥリアヌスは、花輪を飾ったり贈り物をしたりして冬の祝祭に参加することは、異教の神々に仕えることになるかと警告した。そのような祝祭の一つに、異教徒が12月下旬に祝うサトゥルナリア祭というものがあった。

「ラテン神学の父」と称されるテルトゥリアヌスは、サトゥルナリア（「豊かさ」を意味する異教の神に由来する）のような冬の祝祭を非難し、それが後にクリスマスへと変化したと記している。

ミネルヴァリア祭はサトゥルナリア祭がサトゥルヌスの祭典であるのと同様にミネルヴァの祭典であり、サトゥルヌスの祭典はサトゥルナリア祭の時期には若い奴隷でさえも必ず祝わなければならない。新年の贈り物も同様に受け取らなければならない、セプティモンティウム祭も守らなければならない。冬至祭と親族祭の贈り物もすべて要求されなければならない。学校は花で飾られなければならない、フラメンの妻とアエディリスは犠牲を捧げ、学校は定められた祝日に敬われなければならない。偶像の誕生日にも同じことが行われ、悪魔のあらゆる祭典に人々が集まる。これらのことがキリスト教徒の主人にふさわしいと考えるのは、主人ではない者にもふさわしいと考える者以外に誰がいるだろうか？（テルトゥリアヌス『偶像崇拜について』第10章）

テルトゥリアヌスの時代頃、ローマの司教ゼフィリヌス（199-217）とカリストゥス（217-222）は、妥協と腐敗の評判があり（これはヒッポリュトス（ヒッポリュトス『すべての異端の反駁』第9巻第6章）などのローマ・カトリックの聖人によっても確認されている）、教会内で異教と妥協する人々を容認していた、など。

ローマのサトゥルナリア祭やペルシャのミトラ教は、さらに古い異教の宗教、すなわち古代バビロニアの秘儀宗教を翻案したものである。古代バビロニア人は、生まれ変わったニムロドを生まれたばかりのタムーズとして、常緑樹を崇拝することで祝った。聖書は常緑樹を崇拝することを非難している（Deuteronomy12:2-3、Jeremiah3:13、10:2-6）。

バビロニア人は冬至の時期に太陽の再生を祝った。12月25日最終的にイエスの誕生日として選ばれたのは、その時期にサトゥルナリア祭をはじめとする太陽神崇拝が行われていたからである。

西暦354年、ローマの司教リベリウスは、12月25日に祝祭を行うよう人々に命じた。おそらく、ローマの人々がすでにこの日を太陽の誕生日を祝うサトゥルヌスの祭りとして祝っていたため、彼はこの日を選んだのだろう。（Sechrist EH. Christmas. World Book Encyclopedia, Volume 3. Field Enterprises Educational Corporation, Chicago, 1966, p. 408-417）

ヘリオス・ミトラスは唯一の神である。日曜日はミトラスを称えるために聖なる日とされ、毎月16日は仲介者としてのミトラスに捧げられた。**12月25日は彼の誕生日、すなわち冬の太陽の再生、季節の厳しさに屈しない復活の日として祝われた。**（アレンツェン・J.「ミトラ教」『カトリック百科事典』第10巻、ニヒル・オブスタット、1911年10月1日）

コンスタンティヌス帝は、太陽神ミトラスの信奉者であった。ミトラスは不敗の太陽であり、地下の洞窟の岩から生まれたとされていた。おそらくこのため、彼の母ヘレナは、イエスが地下の岩窟で生まれたという神話を信じるようになったのだろう。

ローマは現在この教えを説いている（そして筆者はバチカン市国でその「キリスト降誕」が何度も展示されているのを目にした）が、3世紀にはその支持者の一人であるコモディアヌスが岩の神を非難した。

征服されない者は岩から生まれた、もし彼が神とみなされるならば。では、どちらが先か教えてくれ。岩が神を打ち負かしたのなら、岩の創造主を探さなければならない。さらに、あなたは彼を泥棒としても描いているが、もし彼が神であったなら、盗みで生計を立てていたはずはない。確かに彼は土から生まれ、怪物のような性質を持っていた。そして彼は他人の牛を自分の洞窟に変えた。ウルカヌスの息子カクスがしたように。（コンモディアヌス『キリスト教的規律について』）

イエスは岩から生まれたわけではないが、現在ではそのように描かれることが多い。また、イエスが12月25日に生まれたと教えるのも事実ではない。学者たちは、羊飼いが（Luke 2:8に示されているように）12月25日という遅い時期に羊の群れと共に野外に出ていたとは考えられないと認識している。そして、聖書に記されている（Luke 2:1-5）「冬には人口調査は不可能だっただろう」（クリスマス。カトリック百科事典、1908年）。

真の学者なら認めるように、クリスマスにまつわる多くの慣習や風習は異教に由来する。イエスの使徒たちも、初期の弟子たちも、クリスマスを祝ってはいなかった。

再パッケージ化された異教の祝日

聖書は世俗的な祝日（例えば、禁酒を伴う独立記念日の祝賀行事など）を禁じてはいないが、初期のキリスト教徒は亡くなった聖人に祈りを捧げたり、万聖節やクリスマスのような行事を祝ったりすることはなかった。多くの異教の神々は、本質的に「何かの神」から「何かの聖人」と呼ばれるようになったのである。

異教の慣習の中には変化した部分もあるかもしれないが、形を変えて復活した悪魔的な祝祭は、キリスト教のものではなく、イエスとその初期の弟子たちが守っていたものでもありません。人々が守っている祝祭の多くは異教に由来し、古代バビロニアの秘儀宗教とさえ関連があります。神がバビロンの影響を受けたイスラエルの民を助けるためにネヘミヤを遣わしたとき、ネヘミヤが何をしたかに注目してください。

³⁰私は彼らから異教のあらゆるものを取り除いた。（Nehe-
miah 13:30）

新約聖書は、信仰の妥協と「大いなる神秘のバビロン」（Revelation 17:5）について警告しています。聖書が神の民に「大いなるバビロン」に関して何をすべきかを教えていることに注目してください。

4わが民よ、彼女から離れなさい。さもないと、あなたがたは彼女の罪に加わり、彼女の災いを受けることになる。（Revelation 18:4）

クリスチャンは誘惑と罪から逃れるべきであり（1 Corinthians 6:18、2 Timothy 2:22）、それらを受け入れたり、助長したりしてはならない。異教の慣習を真の神への礼拝に取り入れてはならない（1 Corinthians 10:19-21、2 Corinthians 6:14-18）。たとえそれが伝統であっても（Matthew 15:3-9）、異教の慣習を真の神への礼拝に混ぜてはならない。

11. 神の聖なる日か、それとも嘘か？

信者はどの日を守るべきでしょうか？

1600年以上前、神の聖なる日は、現在カトリックと正教会の聖人と見なされている反ユダヤ主義者ヨハネス・クリュソストモスによって非難されました。数年前、プロテスタントの出版物『クリスチャニティ・トゥデイ』は、実際にヨハネス・クリュソストモスを「初期教会で最も偉大な説教者」と呼びました（ヨハネス・クリュソストモス、初期教会で最も偉大な説教者。Christianity Today、2008年8月8日）。

ヨハネス・クリュソストモスは西暦387年、キリストを信じる者の中にはこれらの祝日を守っている者がいたため、公然とこれらの祝日に反対する説教を行った。彼は特に、ラッパの祭り、贖罪の日（「戸口で断食する」）、仮庵の祭りについて言及した。

衰れて惨めなユダヤ人の祭りが、次から次へと立て続けにやって来ます。ラッパの祭り、仮庵の祭り、断食です。私たちの仲間の中には、私たちと同じ考えだと言う人がたくさんいます。しかし、その中には祭りを見物に行く人もいれば、ユダヤ人と一緒に祭りを守り、断食をする人もいます。私は今すぐにこの邪悪な習慣を教会から追い出したいのです…ユダヤ人の儀式が尊く偉大であるならば、私たちの儀式は偽りです…神は彼らの祭りを憎んでいるのに、あなた方はそれに参加するのですか？神は特定の祭りではなく、すべての祭りをまとめて言ったのです。

ユダヤ人の邪悪で不浄な断食が今、私たちの戸口に迫っています。断食とはいえ、私がそれを不浄と呼んだことを不思議に思わないでください。しかし今、悪魔があなた方の妻たちをラッパの祭りに誘い、彼女たちが喜んでその誘いに応じるのを、あなた方は止めようとしません。あなた方は彼女たちが不敬虔の罪に巻き込まれるのを許し、放蕩な道に引きずり込まれるのを許しているのです。（ヨハネス・クリュソストモス『ユダヤ人に対する説教』第2講、第1章1節、第3章4節。西暦387年9月5日（日曜日）、シリアのアンティオキアにて説教）

ヨハネ・クリュソストモスは、2世紀の彼の地域の教会がユダヤ人と同じ時期に過越祭を祝い、カトリック教会もペンテコステを祝っていたことを認識していたに違いないということを理解しておくことが重要である。したがって、ヨハネ・クリュソストモスは、ローマ・カトリック教会と正教会が過越祭とペンテコステの両方を祝っていると主張していること、つまり、これらの祭りが「すべて一緒に」行われると主張していることから、自らの教会に反する説教を行ったことになる。

さらに、ヨハネ・クリュソストモスは実際にペンテコステと呼ばれる「ユダヤ人の祭り」を支持する文章を書いたことがある（クリュソストモス J. コンスタンティノーブル大主教聖ヨハネ・クリュソストモスの説教集：使徒言行録について）。つまり彼は、イエスの復活後、信者たちは当時「ユダヤ人の祝祭」と考えられていた行事に出席する必要があったと認めたのだ。

もし神がそれらの日すべてに反対していたのなら、なぜ使徒たちはそれらを守ったのだろうか？ 明白な理由は、彼らがイエスの模範に従っており、それらが何らかの形で廃止されたと信じる理由がなかったからである。

前述したように、新約聖書は、いわゆる「ユダヤ教」の聖日の一つを「偉大な」と呼んでいます。カトリックの翻訳では、次のようになっています。

³⁷そして、祭りの最後の大きいなる日に、イエスは立って叫ばれた（John 7:37、ランス訳新約聖書）。

では、どちらが正しいのでしょうか？

イエスの教えに従う者か、それともそれを非難する者か？

ヨハネス・クリュソストモスは、この点に関して、ある程度正しく次のように述べていることを思い出してほしい。

「ユダヤ教の儀式が由緒正しく偉大なものだとするれば、我々の儀式は偽りである。」

では、どの日を祝うべきでしょうか？ 聖書によれば、どの日が「素晴らしい日」なのでしょうか？

どの日が嘘なのか？

ヨハネス・クリュソストモスは、クリスマスやイースターなど、異教と関連のある祝日を支持していた。12月25日をクリスマスとする彼の論理も明らかに間違っており、嘘と誤った情報に基づいていた（Addis WE、Arnold T. 『カトリック辞典：カトリック教会

の教義、規律、儀式、公会議、修道会に関する記述を含む』Benziger Brothers、1893年、178ページ）。

神の定めた日が嘘ではないことは明らかだが、ヨハネ・クリュストモスの（そして彼が提唱した日を採用した教会の）日は明らかに嘘だった。カトリックの聖人トマス・アクィナスでさえ、安息日と基本的に聖書の聖なる日はすべてキリスト教徒にとって意味があったと書いている（聖トマス・アクィナスの『神学大全』）。

興味深いことにカトリック百科事典報告書には、「パウリキア派はしばしば、初期の純粋なキリスト教の生き残りとして描写されてきた（Fortescue A. Paulicians）。11世紀のグレコ・ローマ人は、パウリキア派は「我々の神への崇拜を偶像崇拜として表している。十字架の印と聖画を尊ぶ我々が、いまだに悪魔崇拜に携わっているかのようだ」と書いた（F.C.コニーベア『真理の鍵：アルメニア・パウリキア教会の手引書』補遺9 III、クラレンドン・プレス、オックスフォード、1898年、149ページ）。

キリストを信仰すると公言する多くの人々が、悪魔的な祝祭を不適切に守っていたという認識は、決して新しいものではなく、何世紀にもわたって一部の人々によって非難されてきた。

伝統、あるいは聖書？

地球上で、神の聖なる日を守ろうとする人は比較的少ない。聖書と関連付けられる宗教を信仰していると主張する人々のほとんどは、他の日を守っている。

家族からの圧力で、聖書に基づかない宗教的な祝日を守る人もいる。また、社会や雇用主からの圧力で、聖書の聖なる祝日を守らない人もいる。

イエスは、自分に従う者は家族（Matthew10:36）や世間との間で問題に直面することを覚悟すべきだと警告した。イエスは、真の弟子を憎む世間と妥協するようには言わず（John15:18-19）、完全を目指して努力するようにと説いた（Matthew5:48）。

新改訳聖書は、神の民について次のように教えています。

3彼らは悪と妥協せず、ただ神の道だけを歩む。（Psalm119:3）

あなたは悪と妥協する覚悟がありますか？サタンは罪を良いものに見せかけようとし（Genesis 3:1-6）、「光の天使」として現れます（2 Corinthians 11:14-15）。たとえそれらが良いものに見えたとしても、あなたは彼の祝日を守るのですか？

ギリシャ・ローマの宗教では、祝祭日の遵守は伝統に基づいていると考えられがちだが、それらの伝統はしばしば異教に由来する。過去（そして現在）の多くの指導者がこれらの伝統を支持してきたため、多くの人々はそれらが神に受け入れられるものであるかのように振る舞う。

神の言葉に合致する伝統は良いが（1 Corinthians 11:2、2 Thessalonians 2:15参照）、聖書と矛盾する伝統は守るべきではない。新約聖書はそれを明確に述べている。

8哲学や空虚な欺きによって、だれにも惑わされないように気をつけなさい。それは人間の言い伝えや世の基本的な考え方に基づくものであって、キリストに基づくものではないからです。（Colossians2:8）

³彼は答えて彼らに言った。「なぜあなた方も、自分たちの言い伝えのために神の戒めを破るのか？…⁷偽善者たちよ！イザヤはあなたたちについてこう預言した。

⁸「この民は口先でわたしに近づき、唇でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。」⁹「彼らはむなしくわたしを拝んでいる。人間の戒めを教えとして教えているからだ。」（Matthew ^{15:3, 7-9}）

聖書には、多くの人が受け入れるべきではない伝統を受け入れていると記されており、それに気づいた人々に悔い改めるよう促している。

¹⁹主よ、わが力、わが砦、苦難の日のわが避難所よ。異邦人は地の果てからあなたのもとに来て言うでしょう。「確かに、私たちの先祖は偽り、無益なもの、役に立たないものを受け継いでしまったのです。」（Jeremiah ^{16:19}）

聖書は、異国の宗教的慣習は悪魔的なものだと教えている。

¹⁶彼らは異国の神々を崇拜して神を嫉妬させ、忌まわしい行いによって神を怒らせた。¹⁷彼らは神ではなく悪霊に犠牲を捧げた。自分たちの知らない神々に、あなたたちの先祖が恐れなかった新しい神々、新しく現れた神々に。（Deuteronomy ^{32:16-17}）

この概念は、故ジャン＝グエノール＝マリー・ダニエル＝枢機卿（ローマ・カトリック教会のフランス人）によっても確認されていたことに留意すべきである。

異教世界とキリスト教会は全く相容れないものであり、神と偶像の両方に同時に仕えることはできない。（ダニエル・J著『ラテン・キリスト教の起源』、デイヴィッド・スミスおよびジョン・オースティン・ベイカー訳、ウェストミンスター・プレス、1977年、440ページ）

確かに、異教の世界とキリスト教会は全く相容れないものであり、神と偶像の両方に同時に仕えることはできない。

しかし、彼の教会を含め、多くの人々は今日でも、キリスト教の用語や慣習を取り入れた異教の祝祭日を祝うことで、そうした行為を行っています。イエスはこう言われました。「わたしの言葉にとどまるなら、あなたがたは本当にわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にするでしょう。」（John8:31-32）。神の聖なる日は、私たちを異教から解放してくれるのです。

使徒パウロが警告したことを考えてみてください。

¹⁴不信仰な者と不釣り合いな軛を共にしてはならない。義と不法に何の交わりがあろうか。光と闇に何の交わりがあろうか。¹⁵キリストとベリアルに何の共通点があるだろうか。信者と不信者に何の繋がりがあるだろうか。¹⁶神の神殿と偶像に、何の一致があるだろうか。あなたがたは生ける神の神殿なのだ。神はこう言われた。

「わたしは彼らのうちに住み、彼らの間を歩む。
わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」

¹⁷ したがって

「彼らの中から出て、離れなさい」と主は言われる。「汚れたものに触れてはならない。そうすれば、わたしはあなたたちを受け入れよう。」

¹⁸ 「わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる」と、全能の主は言われる。（² Corinthians 6:14-18）

神は、異教の慣習に加わらない人々にとっては父となるが、それらを崇拜の一部として受け入れる人々にとっては父とはならないという点に注目してください。

異教徒が行っていたような習慣を実践することが神を喜ばせるかのように振る舞う者もいるが、それは自己欺瞞に過ぎない。

³² あなたがたは言う、「私たちは諸国民のようになり、世界の民のようになり、木や石に仕える者になりたい」と。しかし、あなたがたの思い描くことは決して実現しない。（Ezekiel 20:32、新国際版聖書）

²⁶ 彼女の祭司たちはわたしの律法を破り、わたしの聖なるものを汚す。彼らは聖なるものと俗なるものとを区別せず、汚れたものと清いものとの区別はないと教え、わたしの安息日を守ることを怠る。こうしてわたしは彼らの間で汚される。（Ezekiel 22:26、新国際版聖書）

神は、それが大きな違いを生むと言っています。異教の慣習を取り入れることは、神を喜ばせるどころか、神の怒りを招くでしょ

う（Ezekiel 30:13）！官能的な世俗の慣習を擁護することは、悪魔的な行為です（James 3:13-15参照）。

神の聖なる日、それとも何？

聖書では、神の祭りを「聖なる集会」（例えばNumbers28:26、29:12）または「聖なる祭典」（Isaiah30:29参照）と呼んでいます。

聖書は、異教の儀式を誤りであり悪魔的なものとして繰り返し非難しています（1 Corinthians 10:20-21、1 Timothy 4:1）。聖書は、聖書に基づかない祝祭を神への礼拝に取り入れてはならないと述べています（Deuteronomy 32、Jeremiah 10、1 Corinthians 10:20-21）。

しかし、多くの人々は、聖書が是認していない礼拝暦に従うことを決めてしまいました。

支持していません。使徒ヨハネが反キリストと関連付けている行為（1 John 2:18-19）を使用しています。

聖書に基づかない祝祭日は悪魔によって広められ、何十億年にもわたって神の計画を覆い隠すのに役立ってきた。

イエスは、神は真実をもって崇拝されることを望んでいると述べた。

²⁴神は霊である。だから、礼拝する者は霊と真理をもって礼拝しなければならない。（John 4:²⁴、新共同訳）

形を変えただけの悪魔的な祝祭は、真の神を敬うものではありません。神はあなたが神を信頼し、自分のやり方ではなく、神のやり方で物事を行うことを望んでおられます（Proverbs3:5-6）。

聖書の聖なる祝祭日は、神の救いの計画を具体的に示すのに役立ちます。過越祭におけるイエスの犠牲から始まり、「種なしパン」の生活を送るよう努めること、この時代の初穂の召命（ペンテコステ）、黙示録のラッパと復活、私たちの罪におけるサタンの役割とキリストの贖罪の犠牲の想起、地上における神の千年王国の描写（仮庵祭）、そして神がすべての人に救いを与えるという認識（最後の大いなる日）に至るまで、神の計画の一部が明らかにされ、クリスチャンにとってより具体的なものとなります。

聖書は、キリスト教徒に対し、使徒パウロがイエスに倣ったように、パウロに倣うようにと教えている（1 Corinthians 11:1）。

イエスは聖書に定められた聖なる日を守られました（Luke2:41-42、22:7-19、John7:10-38、13）。あなたもイエスが教えられたように、その模範に従うべきではないでしょうか（John13:12-15）？

使徒パウロは聖書の聖なる日を守りました（Acts18:21、20:6,16、21:18-24、27:9、28:17-18、1 Corinthians5:7-8、16:8）。パウロは、悪魔的な行いによって聖なる日を妥協させる者たちについて警告しました（1 Corinthians10:19-21）。聖書の神に従うと主張する人々は、異教から清められるべきです（Nehemiah13:30、2 Peter1:9参照）。

使徒ヨハネは聖書の聖なる日を守っていたが、キリスト教徒を自称する人々が彼の慣習に従っていないことを警告した。

¹⁸子どもたちよ、今は終わりの時です。反キリストが来るという話は聞いていましたが、今や多くの反キリストが現れています。このことから、終わりの時であることが分かります。¹⁹彼らは私たちの中から出て行ったが、彼らは私たちに属する者ではなかった。もし彼らが私たちに属する者であったなら、私たちと共に留まっていたであろう。しかし、彼らが出て行ったのは、彼らが誰一人として私たちに属する者ではないことが明らかになるためであった。（¹ John 2:18-19）

キリスト教徒は、ヨハネが守っていたように、使徒たちと同じ聖書の聖日を守るべきでしょうか？ヨハネは、キリスト教徒であると偽って主張しながら、彼の慣習に従わない者たちは反キリストとして振る舞っていると書いていました。

聖なる日や祝日に関して、私たちは誰の言葉に耳を傾けるべきでしょうか？神の言葉でしょうか、それとも人間の伝統でしょうか？伝統には適切な場面があるかもしれませんが、神の言葉と矛盾する伝統は決して受け入れるべきではありません。

神の言葉は教えのために有益である（2 Timothy 3:16）ので、ペテロや他の使徒たちが当時の宗教指導者たちにどのように対応したかから学ぶべきではないだろうか。

²⁹私たちは人に従うよりも、神に従うべきである。（Acts 5:29）

あなたはイエスと使徒たちの模範に倣い、神の聖なる日を神の御心のままに守り、人間の会議の伝統に阻まれることを許さないでしょうか？

神の聖書に定められた祭り（Leviticus23:37）である「聖なる集会」を宣言する者たち（Leviticus23:8,21,24,27,35,36）の言葉に耳を傾けますか？

イエスは言った。

²¹私の兄弟とは、神の言葉を聞いてそれを行う人々のことである。（Luke 8:21）

あなたは本当にイエスの兄弟の一人ですか？クリスチャンはそうあるべきです（Romans8:29）。私たちは真理によって区別されるべき存在です（John17:19）。

あなたやあなたの家族は、神の言葉を聞いてそれを実行しますか？悪魔に唆された神の聖なる日や伝統を守りますか？

「14主にお仕えせよ！15もし主にお仕えすることがあなた方に悪であるように思えるなら、今日、あなた方が仕える者を自分で選びなさい。あなた方が住んでいる土地の異教の神々のように。しかし、私と私の家は主にお仕えします。（Joshua24:14-15）

神が定めた聖なる日を選びましょう。

祝日カレンダー

聖日*	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
過越祭	4月22日	4月10日	3月30日	4月19日	4月8日	3月27日	4月15日
種なしパン	4月23日～29日	4月11日～17日	3月31日 - 4月20日～26日	4月9日～15日	3月28日 - 4月16日		
ペンテコステ 6月5日		6月12日	6月4日	5月20日	6月9日	5月31日	5月16日
トランペット 9月26日		10月3日	9月21日	9月10日	9月30日	9月19日	9月7日
贖罪	10月12日	9月30日	9月19日	10月9日	9月28日	9月16日	10月5日
仮庵の祭り	10月17日～23日	10月5日～11日	9月24日 - 10月14日～20日	10月3日～9日	9月21日～27日	10月	
最後の素晴らしい日 10月17日		10月24日	10月12日	10月1日	10月21日	10月10日	9月28日

* すべての祝祭日は、前日の日没から始まります。

	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
聖なる日々	過越祭の夜の礼拝は日没に始まります							
	3月	4月	4月	3月	4月	4月	3月	4月
	31	20	9	29	16	6	25	12
	聖なる日々はすべて、前日の夕暮れに始まります							
無酵母パンの祭りの初日	4月	4月	4月	3月	4月	4月	3月	4月
	2	22	11	31	18	8	27	14
無酵母パンの祭りの最終日	4月	4月	4月	4月	4月	4月	4月	4月
	8	28	17	6	24	14	2	20
五旬節	5月	6月	6月	5月	6月	6月	5月	6月
	24	13	4	20	9	1	16	5
ラッパの祭り	9月	10月	9月	9月	9月	9月	9月	9月
	12	2	21	10	28	18	6	24
贖罪の日	9月	10月	9月	9月	10月	9月	9月	10月
	21	11	30	19	7	27	15	3
仮庵の祭り	9月	10月	10月	9月	10月	10月	9月	10月
	26	16	5	24	12	2	20	8
大きな祭りの最終日	10月	10月	10月	10月	10月	10月	9月	10月
	3	23	12	1	19	9	27	15

神の一日は日没から翌日の日没までです。したがって、上に挙げたすべての聖なる日々は、過越祭の夜を除き、記載された日付の前夜に始まります。
例えば、2026年の無酵母パンの祭りの初日は、4月1日の日没に始まり、4月2日の日没まで続きます。

Continuing Church of God

米国事務所 *Continuing Church of God* は以下の場所にあります。

PO Box 109, Grover Beach, California, 93483 USA。

Continuing Church of God (CCOG) のウェブサイト

CCOG.ASIA このサイトはアジアに焦点を当てており、複数のアジア言語による記事に加え、英語の記事もいくつか掲載されています。

CCOG.IN このサイトはインド系の人々を対象としています。英語と様々なインドの言語で書かれた資料が掲載されています。

CCOG.EU このサイトはヨーロッパを対象としており、複数のヨーロッパ言語のコンテンツを提供しています。

CCOG.NZ このサイトは、ニュージーランド在住者およびイギリス系のルーツを持つ人々を対象としています。

CCOG.ORG これは、*Continuing Church of God* の主要なウェブサイトです。世界中の人々に奉仕しています。記事、リンク、ビデオ、そして毎週の説教や祝日の説教などが掲載されています。

CCOGAFRICA.ORG このサイトはアフリカ在住者を対象としています。

CCOGCANADA.CA このサイトはカナダ在住者を対象としています。

CDLIDD.ES *La Continuación de la Iglesia de Dios. Continuing Church of God.*

PNIND.PH *Patuloy na Iglesia ng Diyos*。こちらはフィリピンのウェブサイトで、英語とタガログ語の情報が掲載されています。

ニュースと歴史に関するウェブサイト

COGWRITER.COM このウェブサイトは主要な布告ツールであり、ニュース、教義、歴史記事、ビデオ、預言に関する最新情報などを掲載しています。

CHURCHHISTORYBOOK.COM これは覚えやすいウェブサイトです、教会史に関する記事や情報が掲載されています。

BIBLENEWSPROPHECY.NET これはニュースと聖書関連の話題を扱うオンラインラジオのウェブサイトです。

説教や短い説教を配信するYouTube動画チャンネル

BibleNewsProphecy チャンネル。CCOGの説教動画。

CCOGAfrica チャンネル。アフリカ諸語によるCCOGメッセージ。

CDLIDDSermones チャンネル。スペイン語のCCOGメッセージ。

ContinuingCOG チャンネル。CCOGのビデオ説教。

神の聖なる日か、それとも悪魔の祝日か？

祝日と聞いて、何を思い浮かべますか？常緑樹、リース、ウサギ、卵、
ホットクロスバン、魔女の衣装などを思
い浮かべますか？



しかし、それらのシンボルはどれも聖書の中で支持されていません。聖書が実際に何を教えているかご存知ですか？

使徒パウロは次のように書いた。

19 では、私は何を言っているのでしょうか。偶像が何かであるとか、偶像に捧げられたものが何かであるということでしょうか。20 そうではなく、異邦人が捧げるいけにえは、神ではなく悪霊に捧げているということです。私はあなたがたに悪霊と交わることを望みません。21 主の杯と悪霊の杯を飲むことはできません。主の食卓と悪霊の食卓にあずかることはできません。22 それとも、私たちは主を嫉妬させるのでしょうか。私たちは主よりも強いのでしょうか。（コリント人への手紙第一）（新約聖書 10:19-22）

神の聖なる日を守るべきか、それとも悪魔の祝日を守るべきか？